

第 I 部 独身者調査の結果

第 I 部では、独身者調査の結果から、18 歳から 34 歳の未婚男女を主な集計対象として、結婚や出産に関する考え方、交際状況、希望するライフコース像、生活スタイルについて示す。

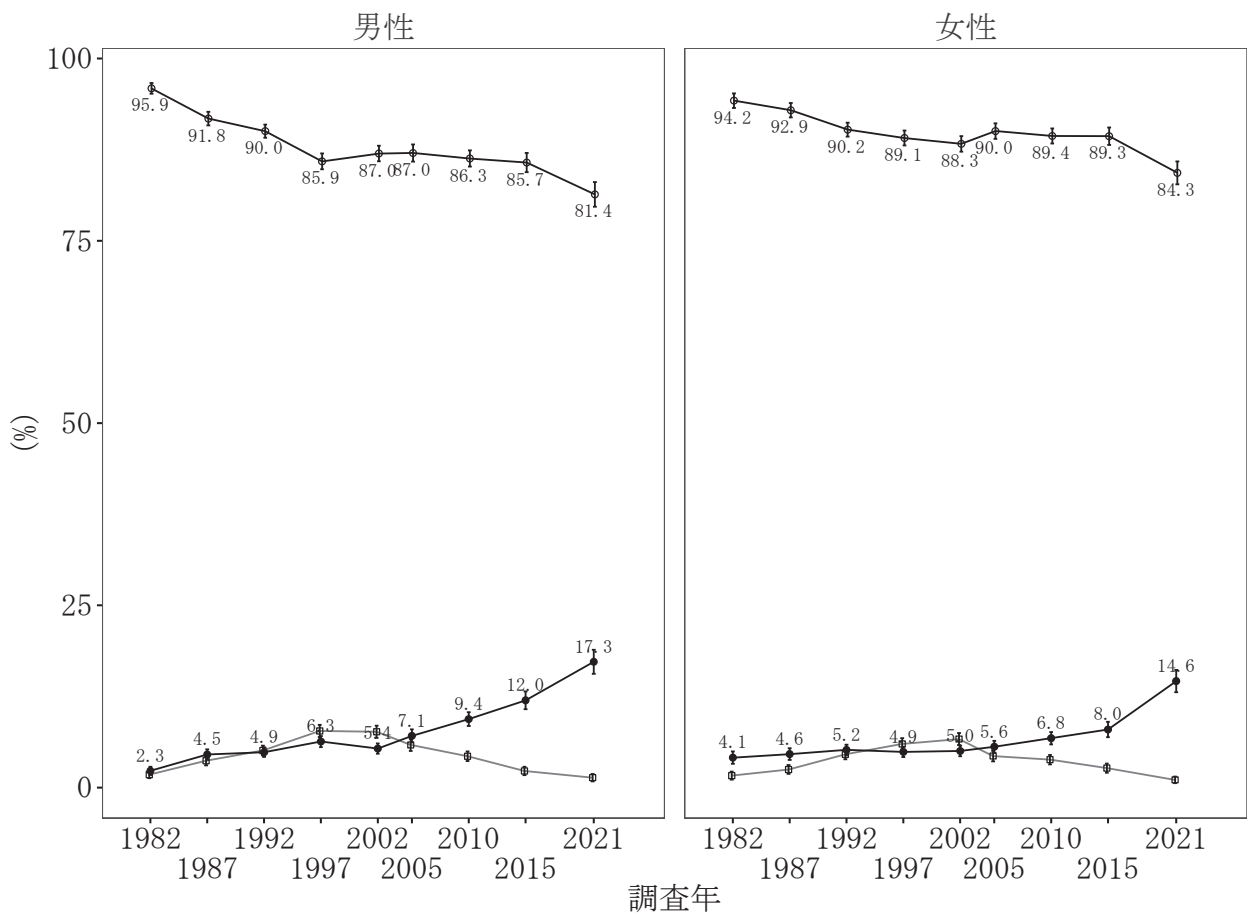
1 結婚についての考え方

1.1 結婚の意思

<「いずれ結婚するつもり」の男女は前回調査から減少>

「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合は、1997年（第11回）調査以降、比較的安定的に推移してきたが、今回調査では男女とも前回から減少し、18～34歳の男性では81.4%（前回85.7%）、同女性では84.3%（前回89.3%）であった。一方、「一生結婚するつもりはない」と答える未婚者は2000年代に入って増加傾向が続いており、今回調査では男性で17.3%、女性で14.6%となった。

図表 1-1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思



○ いずれ結婚するつもり ● 一生結婚するつもりはない □ 不詳

注：対象は18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第8回（1982）男性（2,732）、女性（2,110）、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第13回（2005）男性（3,139）、女性（3,064）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

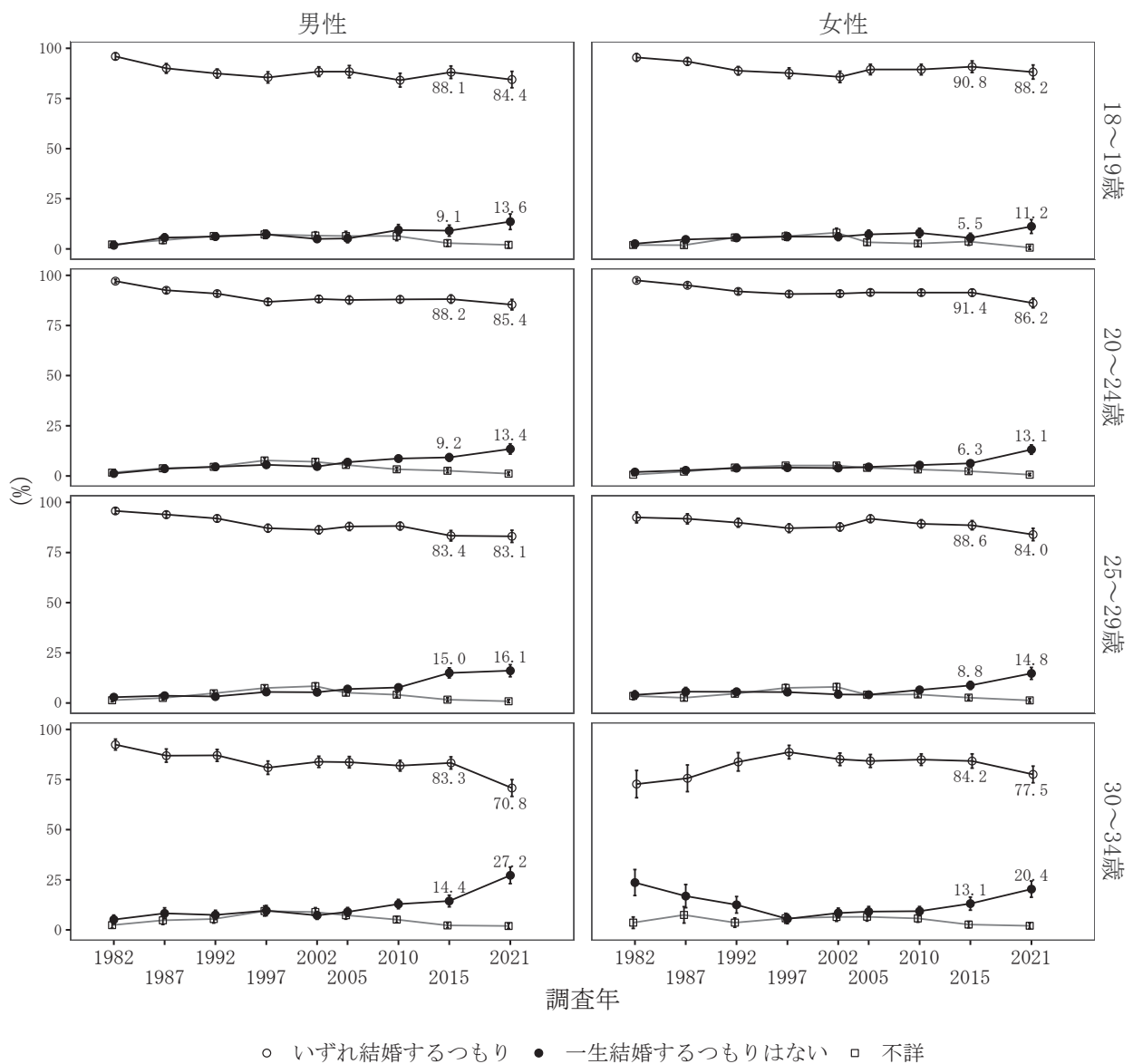
【報告書図表1-1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思】

<「いずれ結婚するつもり」と考える未婚者、性別、年齢層にかかわらず減少>

ここでは未婚者の生涯の結婚の意思について年齢別に示した。男女いずれの年齢でも、前回調査より「いずれ結婚するつもり」と答える割合が減少しており、第15回調査までの変化と比較して、今回は顕著な変化となった。とくに減少がみられたのは、30～34歳の男性（前回83.3%、今回70.8%）、30～34歳の女性（前回84.2%、今回77.5%）、20～24歳の女性（前回91.4%、今回86.2%）である。

今回調査では、性別や年齢にかかわらず減少がみられたことから、調査を行った時期の社会状況が、幅広い世代の意識に影響した可能性も示唆される。

図表 1-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の生涯の結婚意思



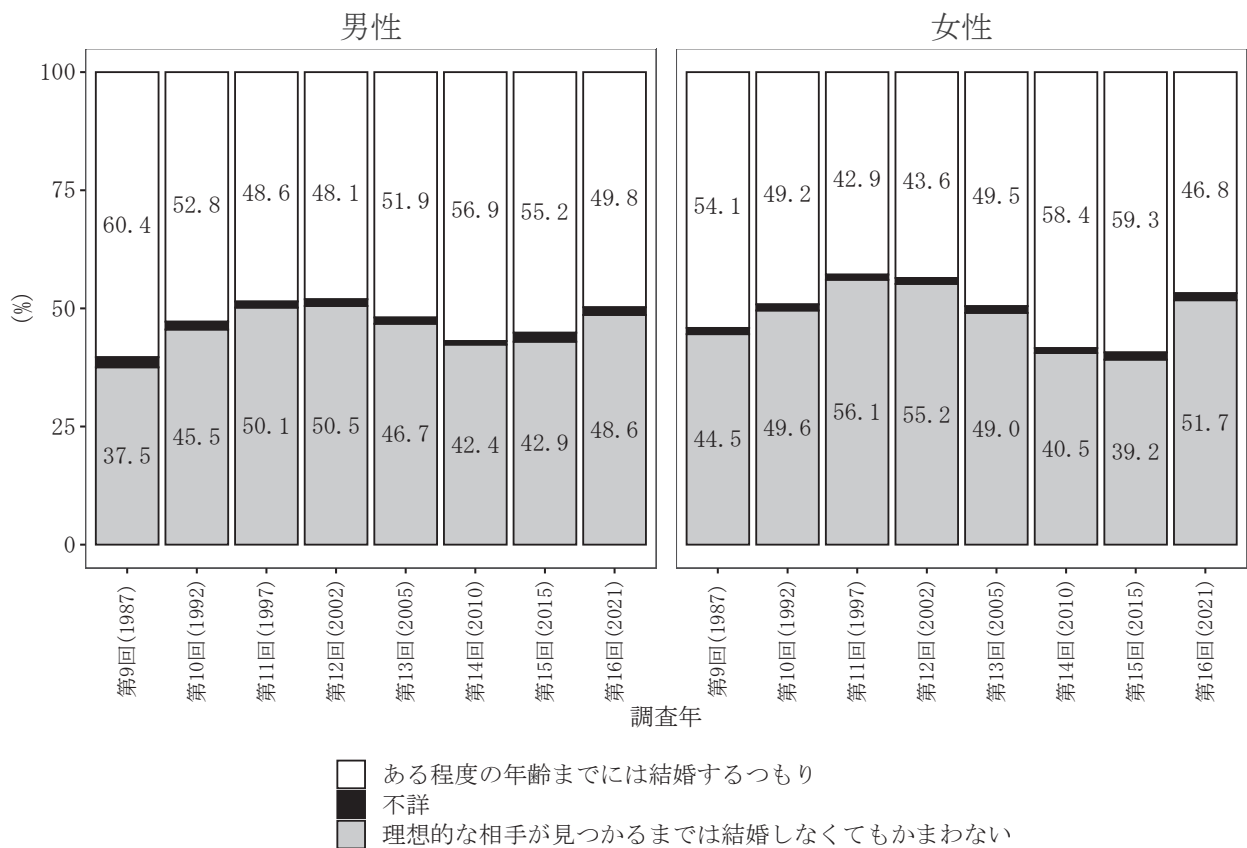
注：対象は18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

【報告書図表1-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の生涯の結婚意思】

<結婚時期の決め手、年齢か理想的な相手かは、ほぼ半々>

結婚する意思のある未婚者のうち、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考える割合は、ほぼ半々である。前回調査に比べると、男女とも「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考える割合が高まり、男性では48.6%、女性では51.7%となった。

図表 1-1-3 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方
(年齢か理想的な相手か)



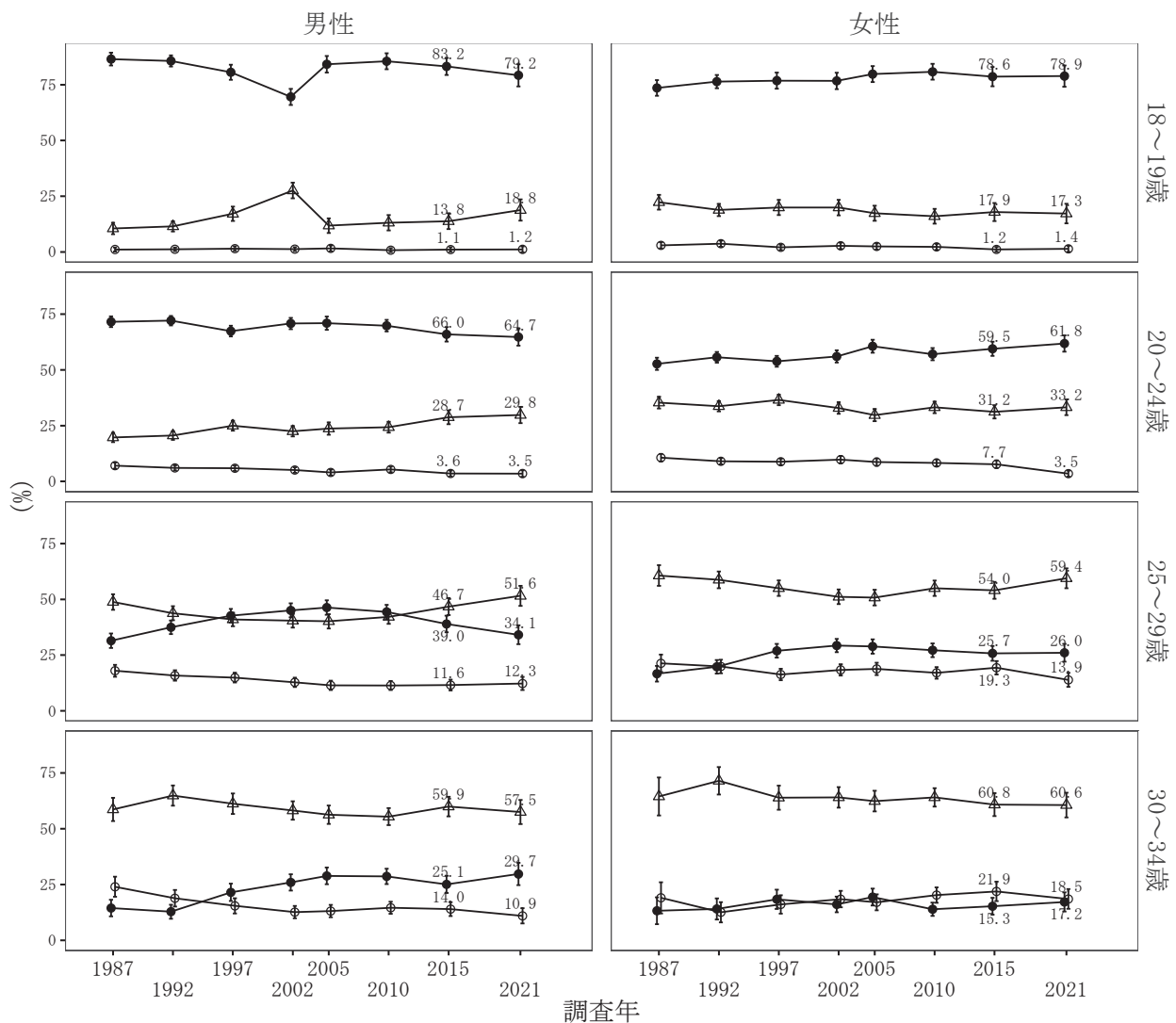
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。客体数は、第9回男性(3,027)、女性(2,420)、第10回男性(3,795)、女性(3,291)、第11回男性(3,420)、女性(3,218)、第12回男性(3,389)、女性(3,085)、第13回男性(2,732)、女性(2,759)、第14回男性(3,164)、女性(3,044)、第15回男性(2,319)、女性(2,296)、第16回男性(1,654)、女性(1,731)。設問「同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」(1. ある程度の年齢までには結婚するつもり、2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない)。

【報告書図表1-1-3 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方(年齢か理想的な相手か)】

<25歳以上の過半数は「理想的な相手が見つければ〔一年以内に〕結婚してもよい」と考えている>

一年以内の結婚意思を年齢別にみると、「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と考える割合は、年齢が上であるほど高く、25～29歳、30～34歳では、5、6割に上る。同割合は、20～24歳と25～29歳で男女とも2015年調査時から増加した。増加幅は25～29歳でもっとも大きく、男女とも5ポイント前後である。「一年以内に結婚したい」と考える割合も年齢が上である方が高く、25～29歳と30～34歳では男女とも10%台で、女性の30～34歳では18.5%である。

図表 1-1-4 調査・年齢別にみた、未婚者の一年以内の結婚意思



○ 一年以内に結婚したい △ 理想的な相手が見つければ結婚してもよい ● まだ結婚するつもりはない

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。「不詳」の推移は掲載を省略。設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。」（1. 一年以内に結婚したい、2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい、3. まだ結婚するつもりはない）。

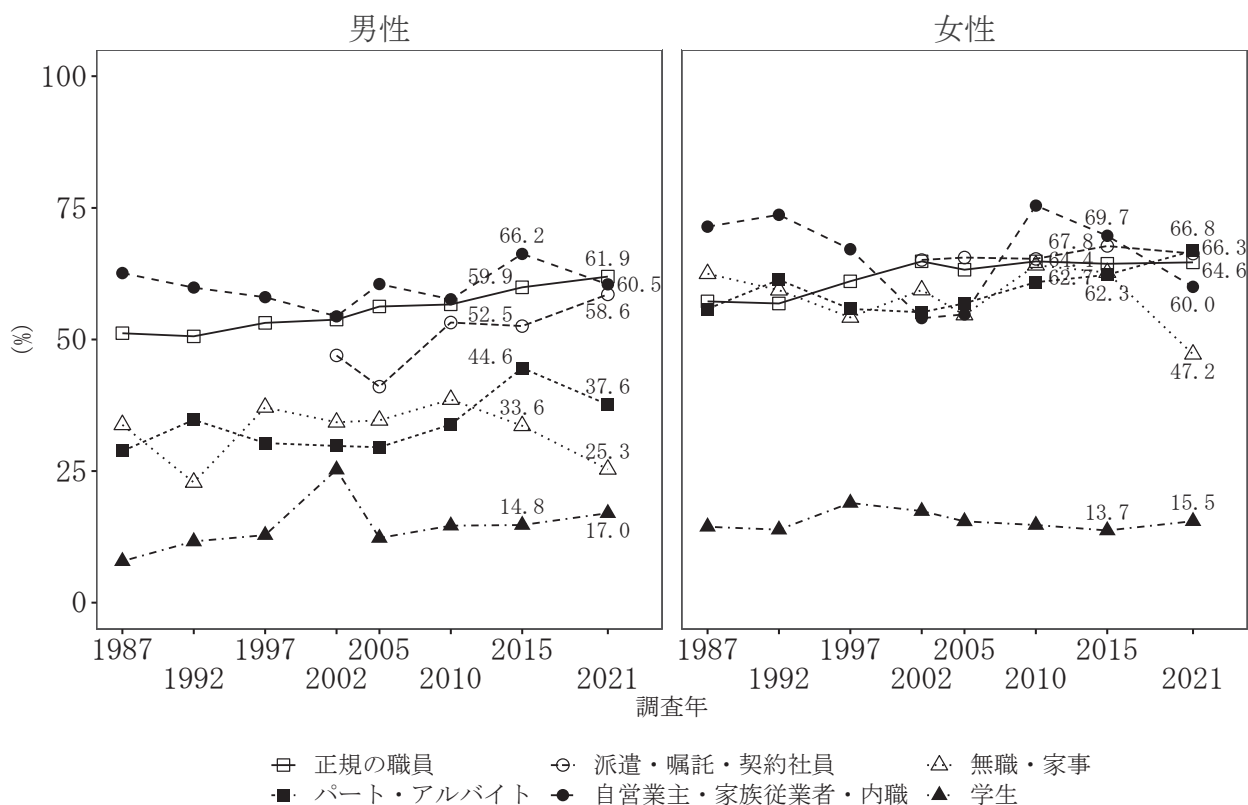
【報告書図表1-1-4 調査・年齢別にみた、未婚者の一年以内の結婚意思】

＜一年以内の結婚意思、男性は就業状況により違い＞

就業状況別に一年以内の結婚意思をみると、男性では正規の職員、自営業主・家族従業者・内職、派遣・嘱託・契約社員の6割前後が結婚意思を示した一方で、パート・アルバイトでは37.6%、無職・家事では25.3%と少ない。前回調査と比べると、男性では、自営業主・家族従業者・内職、パート・アルバイト、無職・家事の男性で、一年以内の結婚意思のある人が減少した。

女性では、就業状況による違いは男性ほど顕著ではなく、正規の職員、パート・アルバイト、自営業主・家族従業者・内職のいずれでも、約3分の2が一年以内の結婚意思を示した。無職・家事の女性で一年以内の結婚意思を示したのは47.2%で、前回調査の62.7%から低下した。

図表 1-1-5 調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある未婚者割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。「一年以内に結婚したい」または「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した未婚者の割合。「派遣・嘱託」の区分は第12回（2002）調査で選択肢に追加（第13回（2005）調査では、さらに同区分に「契約社員」も追加）。客体数は、第15回（2015）男性（正規の職員1,155、パート・アルバイト166、派遣・嘱託・契約社員118、自営業主・家族従業者・内職80、無職・家事122、学生583）、女性（正規の職員1,078、パート・アルバイト273、派遣・嘱託・契約社員183、自営業主・家族従業者・内職33、無職・家事126、学生532）、第16回（2021）男性（正規の職員904、パート・アルバイト93、派遣・嘱託・契約社員70、自営業主・家族従業者・内職43、無職・家事75、学生406）、女性（正規の職員840、パート・アルバイト184、派遣・嘱託・契約社員95、自営業主・家族従業者・内職25、無職・家事89、学生439）。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）に対する割合は第15回（2015）調査（45.5%、52.6%）、第16回（2021）調査（46.9%、50.8%）であった。設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。」（1. 一年以内に結婚したい、2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい、3. まだ結婚するつもりはない）。

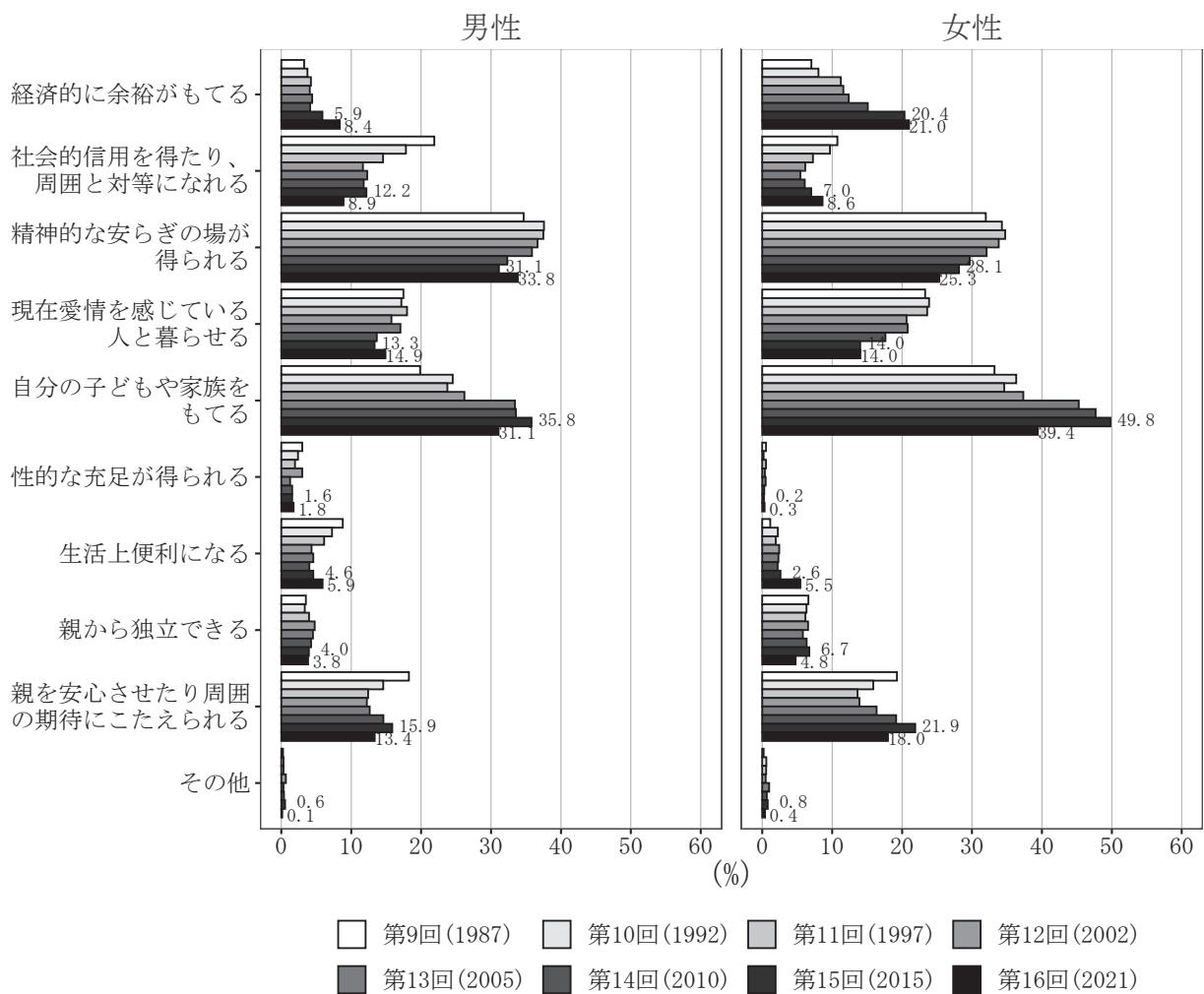
【報告書図表1-1-5 調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある未婚者割合】

1.2 結婚の利点・独身の利点

＜結婚の利点、「自分の子どもや家族をもてる」は減少に転じ、「経済的に余裕がもてる」は微増＞

結婚することの具体的な利点のとらえ方をみると、第9回（1987年）調査からはほぼ一貫して増えていた「自分の子どもや家族をもてる」を挙げる人が減少に転じ、女性では前回調査から10ポイント近く減少して39.4%となった。男性では「精神的な安らぎの場が得られる」を挙げる人が微増して33.8%となり、「自分の子どもや家族をもてる」の31.1%を上回った。「経済的に余裕がもてる」を挙げる人は、前回に続き、男女とも微増した。

図表 1-2-1 調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合



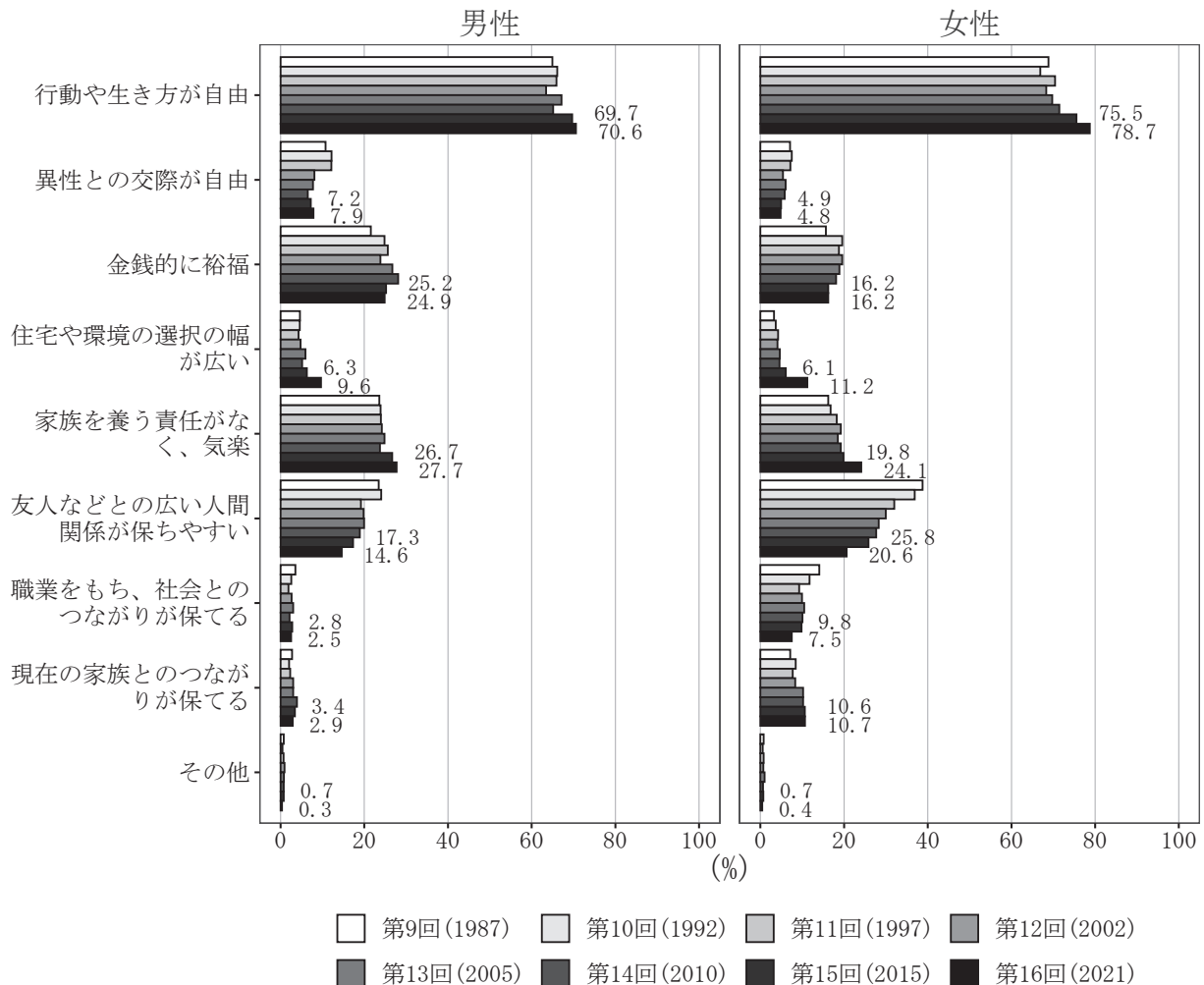
注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な結婚の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。結婚することに利点があると回答した割合は、第9回（男性69.1%、女性70.8%）、第10回（同66.7%、71.4%）、第11回（64.6%、69.9%）、第12回（62.3%、69.4%）、第13回（65.7%、74.0%）、第14回（62.4%、75.1%）、第15回（64.3%、77.8%）、第16回（63.3%、70.9%）。設問「今のあなたにとって、結婚することにはなにか利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

【報告書図表1-2-1 調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合】

<独身生活の最大の利点「行動や生き方が自由」は増加が続く>

独身生活の具体的な利点をみると、第9回（1987年）調査以来、利点として挙げる人が最多である「行動や生き方が自由」は、今回の調査でさらに微増し、男性で70.6%、女性で78.7%となった。「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」の選択率は低下傾向が続いている。また、「家族を養う責任がなく、気楽」や「住宅や環境の選択の幅が広い」を挙げる人が増加した。

図表 1-2-2 調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合



注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な独身生活の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。独身生活に利点があると回答した割合は、第9回（男性83.0%、女性89.7%）、第10回（同83.6%、89.0%）、第11回（82.7%、88.5%）、第12回（79.8%、86.6%）、第13回（83.8%、87.2%）、第14回（81.0%、87.6%）、第15回（83.5%、88.7%）、第16回（84.1%、90.3%）。設問「それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

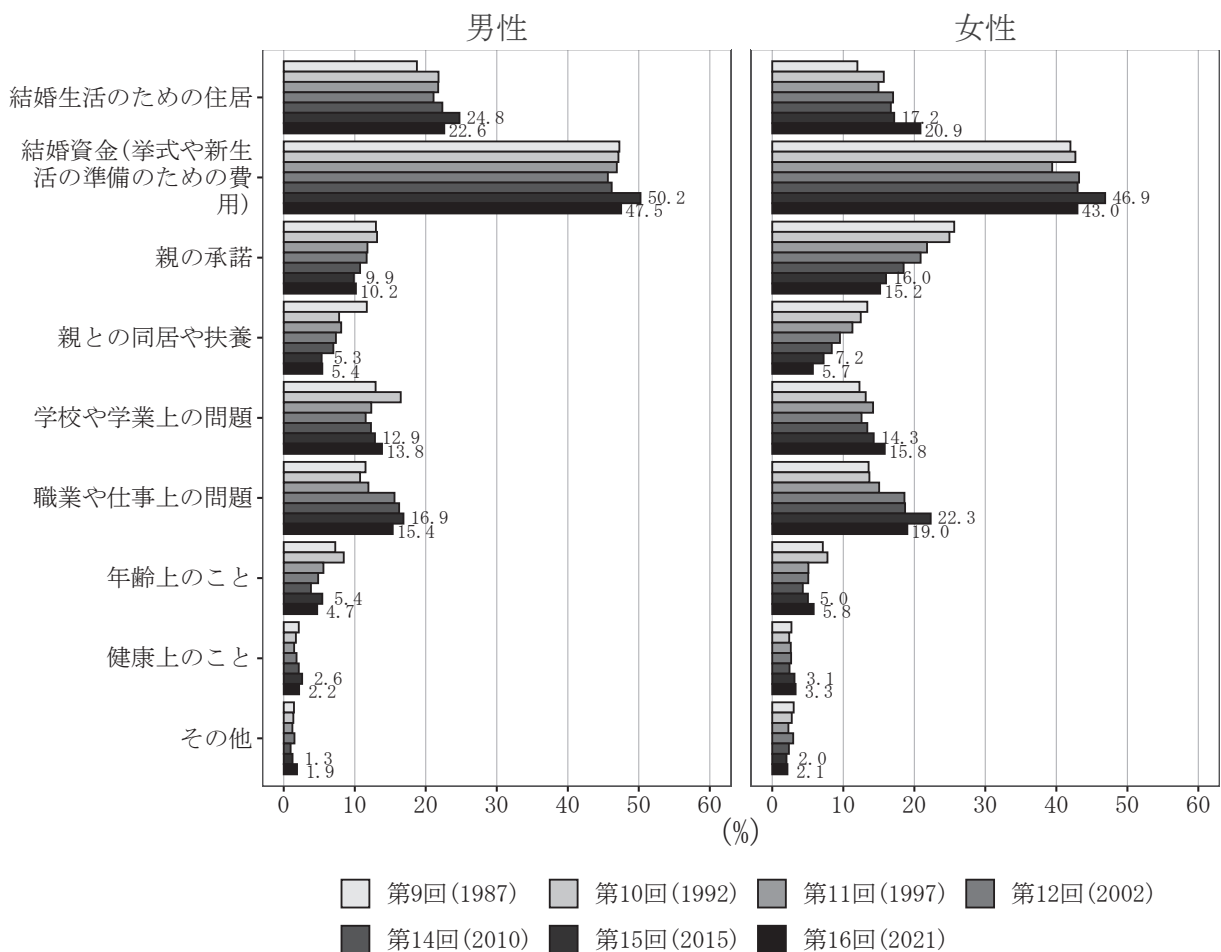
【報告書図表1-2-2 調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合】

1.3 結婚へのハードルと独身でいる理由

＜一年以内の結婚に対する障害では「結婚資金」「住居」「職業や仕事上の問題」が上位に＞

一年以内に結婚するとした場合、何らかの障害があるかをたずねると、第9回（1987年）調査以降、男女ともに6割台から7割が「障害がある」と回答してきた。今回の調査においても、その割合は大きくは変わらず、男性で65.2%、女性では69.3%が一年以内の結婚に障害があると回答している。何が障害になるかを具体的にたずねたところ、「結婚資金」を挙げる未婚者がもっとも多く、男性では47.5%、女性では43.0%にのぼる。次いで多いのが、「住居」（男性22.6%、女性20.9%）、「職業や仕事上の問題」（男性15.4%、女性19.0%）である。

図表 1-3-1 調査別にみた、各「結婚の障害」を選択した未婚者の割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な結婚の障害（2つまで選択）として考えているかを示す。第13回調査は、設問選択肢の表現が一部他の回と異なるため非掲載。「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者のうち、一年以内の結婚に障害があると回答した割合は、第9回（男性67.1%、女性69.2%）、第10回（同67.9%、71.3%）、第11回（65.0%、67.8%）、第12回（64.5%、70.1%）、第14回（68.1%、71.5%）、第15回（68.3%、70.3%）、第16回（65.2%、69.3%）。設問「現在交際している人と（あるいは理想的な相手が見つかった場合）一年以内に結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。1に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な障害を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

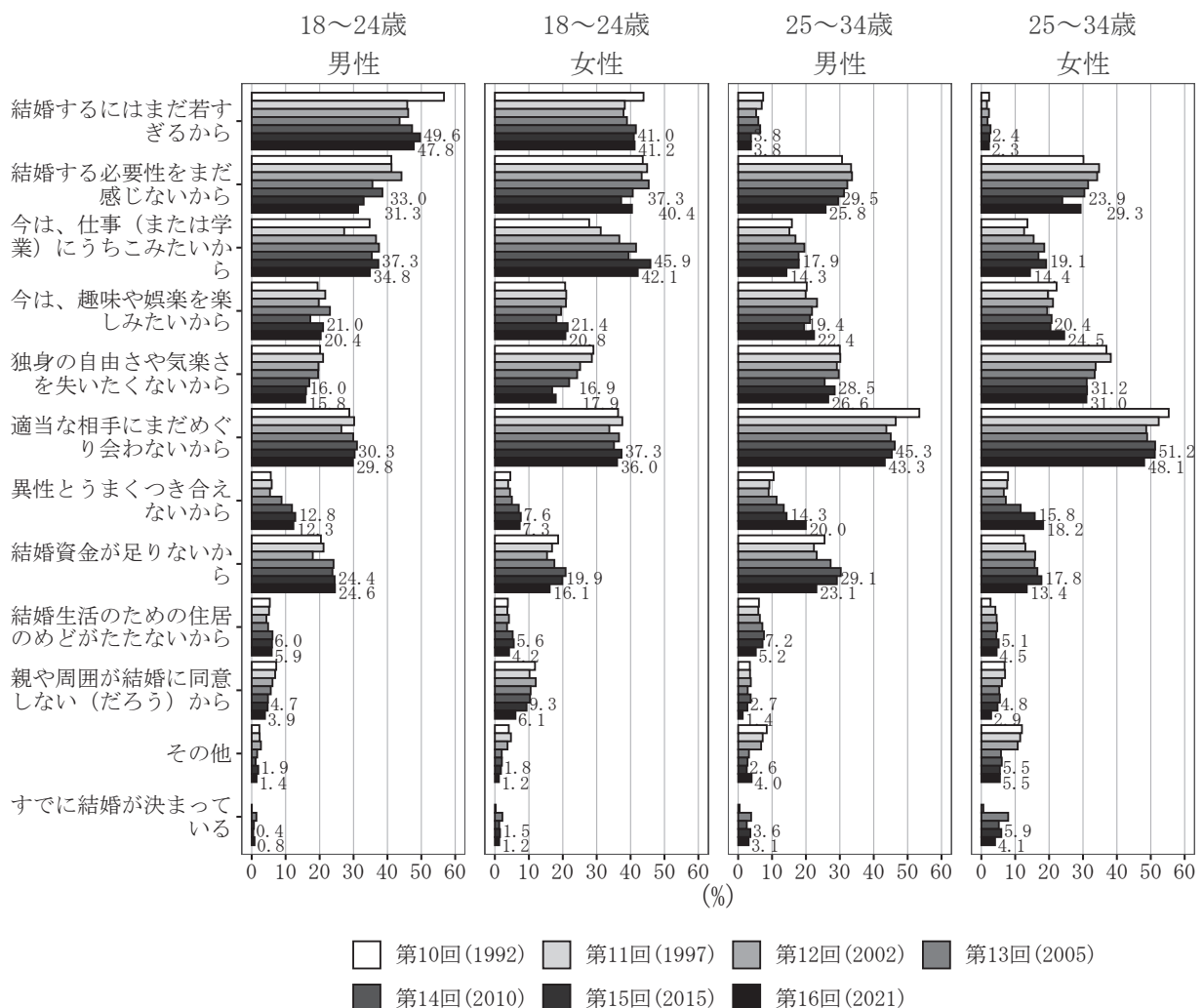
【報告書図表1-3-1 調査別にみた、各「結婚の障害」を選択した未婚者の割合】

<独身でいる理由は、結婚する積極的な動機がないこと、25歳以上では適当な相手がいないこと>

結婚意思のある未婚者に、現在独身でいる理由をたずねた。若い年齢層（18～24歳）では「結婚するにはまだ若すぎるから」、「結婚する必要性をまだ感じないから」、「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」といった、積極的な結婚の動機がないことが現在独身でいる理由の上位に挙げられている。

25～34歳では、「適当な相手にまだめぐり合わないから」の選択率がもっとも高く、男性の43.3%、女性の48.1%がこれを挙げた。また「異性とうまくつき合えないから」の選択率は2005年（第13回）調査以降、上昇している。その他、今回の調査では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が男女ともに増加した。

図表 1-3-2 調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合



注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を独身でいる理由（3つまで選択）として挙げているかを示す。「すでに結婚が決まっている」は第13回（2005）調査から選択肢に追加（第12回（2002）調査は「その他」の自由記述から振り分けたもの）。設問「あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最もあてはまると思われる理由を 最高3つまで選んで、右の回答欄に番号を記入してください（すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12を記入してください）。」

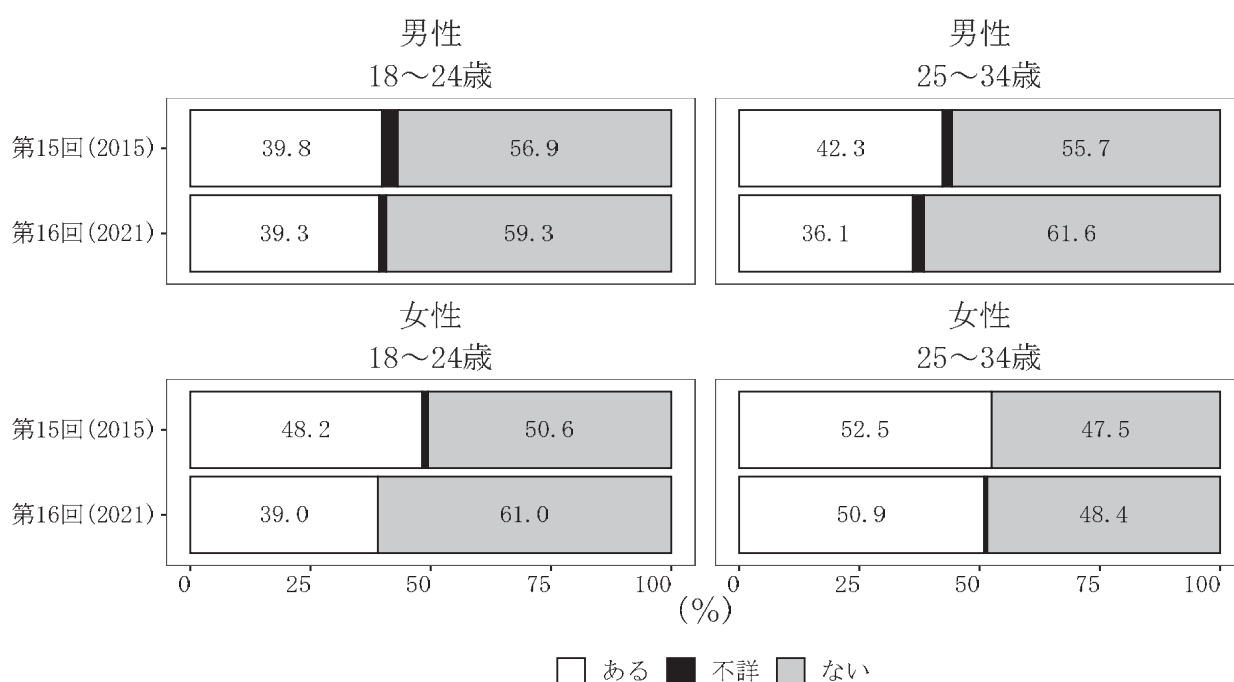
【報告書図表1-3-2 調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合】

1.4 結婚意思のない未婚者の意思の変化

<これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことがない割合は男女とも増加>

調査時点で「一生結婚するつもりはない」と回答した未婚者に、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことがあるかをたずねたところ、「ない」と回答した割合は、男性では、18～24歳で59.3%、25～34歳で61.6%、女性では18～24歳で61.0%、25～34歳で48.4%であった。いずれの割合も2015年調査よりも高い。18～24歳の女性では、2015年調査（50.6%）に比べ、10ポイント増加した。

図表 1-4-1 調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）



注：対象は、「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（18～24歳123、25～34歳201）、女性（同85、120）、第16回男性（18～24歳135、25～34歳216）、女性（同141、159）。設問「現在のお気持ちは別として、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。」（1. ある、2. ない）。

【報告書図表1-4-1 調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）】

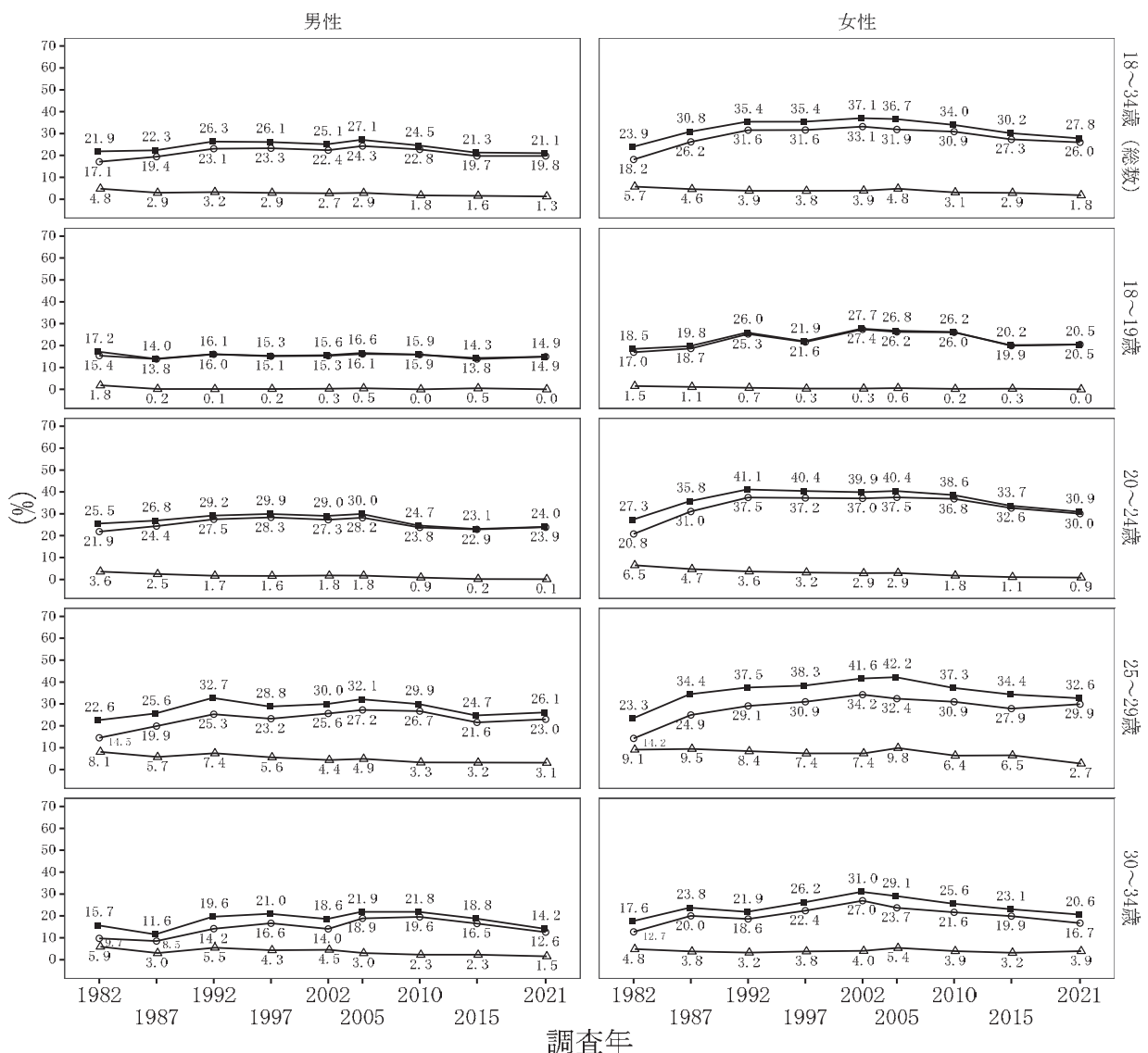
2 交際経験

2.1 異性との交際状況

＜恋人または婚約者がいる未婚者の割合は 2000 年代前半がピーク、今回は男性では 2 割で横ばい、女性では 3 割弱で前回から微減＞

異性との交際状況をたずねたところ、「恋人として交際している異性がいる」「婚約者がいる」と回答した割合は、2000 年代前半をピークに男女とも低下している。今回調査では 18～34 歳の男性で 21.1%と前回から横ばい、同女性では 27.8%で前回から微減した。

図表 2-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況（恋人または婚約者がいる割合）



△ 婚約者がいる ○ 恋人として交際している異性がいる ■ 恋人または婚約者がいる（再掲）

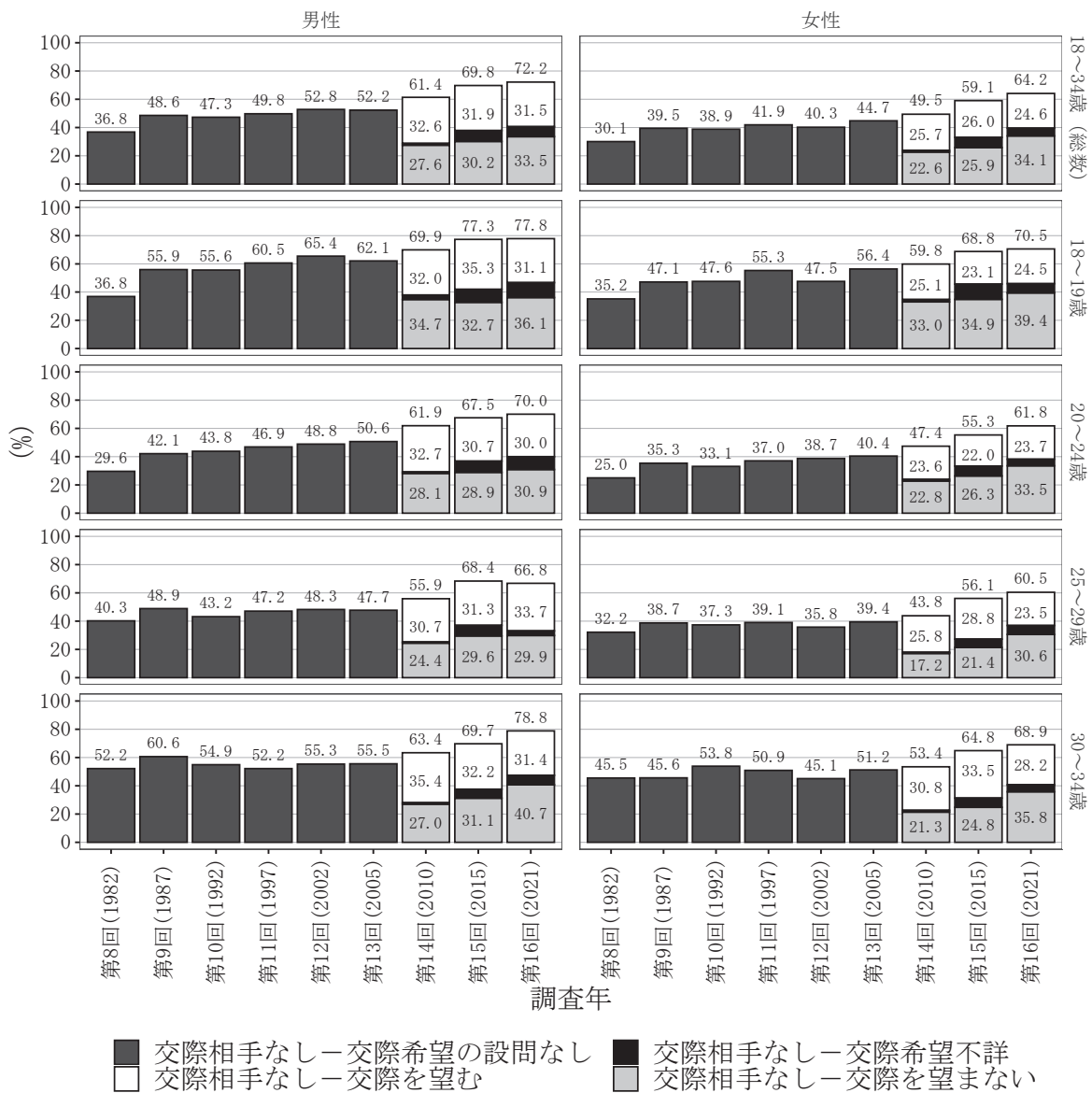
注：対象は18～34歳の未婚者。「恋人として交際している異性がいる」「婚約者がいる」と回答した未婚者の割合。設問「あなたには、交際している異性がありますか。」（1. 交際している異性はいない、2. 友人として交際している異性がいる、3. 恋人として交際している異性がいる、4. 婚約者がいる）。

【報告書図表2-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況（恋人または婚約者がいる割合）】

＜異性の交際相手をもたない未婚者で交際を望まない人が増加＞

調査時点で交際相手をもたない（異性の友人／恋人、婚約者のいずれもない）割合は、今回調査では18～34歳の未婚男女の7割前後である（図の棒グラフの高さで示される）。第14回調査以降では、この未婚者に異性との交際の希望をたずねている。「交際を望んでいる」人は半数弱であり、未婚男性全体ではどの年齢層でも3割台、未婚女性全体ではどの年齢層でも2割台である。すなわち、18～34歳の未婚男女の3人に1人は「特に異性との交際を望んでいない」と回答している。

図表 2-1-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望



注：対象は18～34歳の未婚者。異性の交際相手（婚約者、異性の恋人、異性の友人）をもたない未婚者の割合。交際の希望は第14回以降のみ。設問「あなたには、交際している異性がありますか。」において交際している異性はいない場合、「異性との交際の希望」（1. 交際を望んでいる、2. とくに異性との交際を望んでいない）。

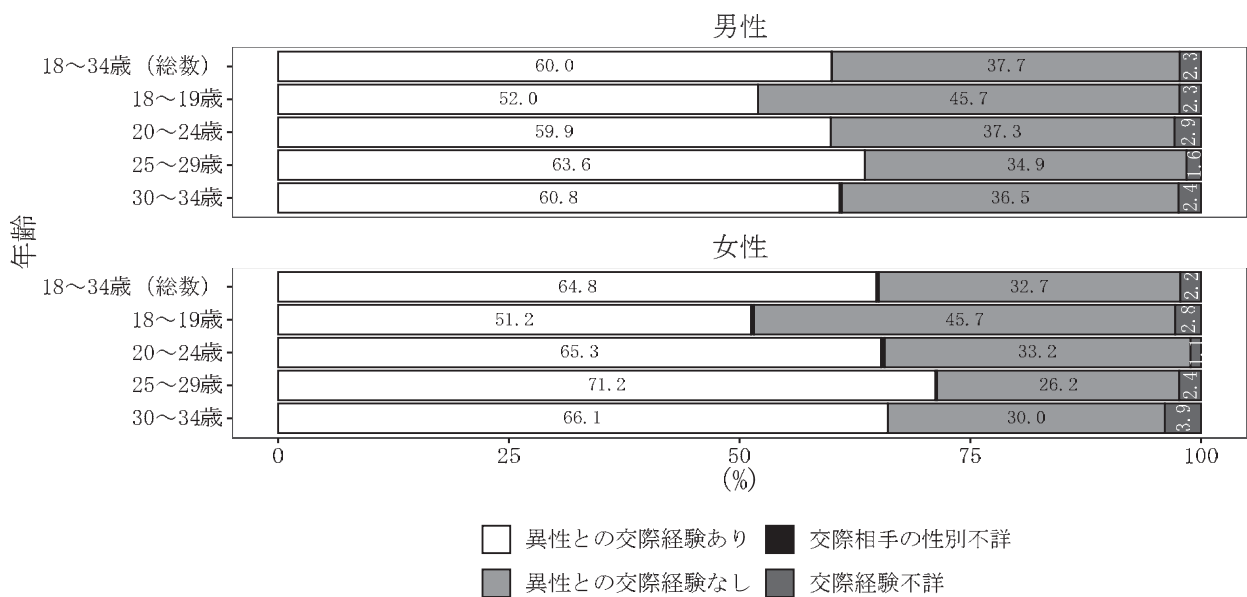
【報告書図表2-1-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望】

2.2 交際経験

<20代後半で異性の恋人との交際経験がある未婚者、男性で6割強、女性で7割>

今回調査では、未婚者にこれまでの交際経験をたずねた。異性の恋人との交際経験がある人の割合は、18～19歳の男性で52.0%、女性で51.2%である。交際経験割合は25～29歳の男女で最も高く、男性では63.6%、女性では71.2%であった。18～34歳の未婚者全体では、男性60.0%、女性64.8%が異性の恋人との交際経験を有している。

図表 2-2-1 年齢別にみた、異性との交際経験（恋人として交際）をもつ未婚者の割合：
第16回調査（2021年）



注：対象は18～34歳の未婚者。客体数は、18～34歳（総数）男性（2,033）、女性（2,053）、18～19歳男性（302）、女性（322）、20～24歳男性（700）、女性（799）、25～29歳男性（579）、女性（549）、30～34歳男性（452）、女性（383）。設問「あなたのこれまでの交際経験（恋人として交際）についておたずねします。」（1）恋人として交際した経験（1. ない、2. ある）、（2）交際相手の性別（1. 男性、2. 女性）。男性回答者については、「2. 女性」、女性回答者については「1. 男性」を異性としている。（1）の回答が不詳のケースを「交際経験不詳」、交際経験がある人のうち（2）の回答が不詳のケースを「交際相手の性別不詳」とした。

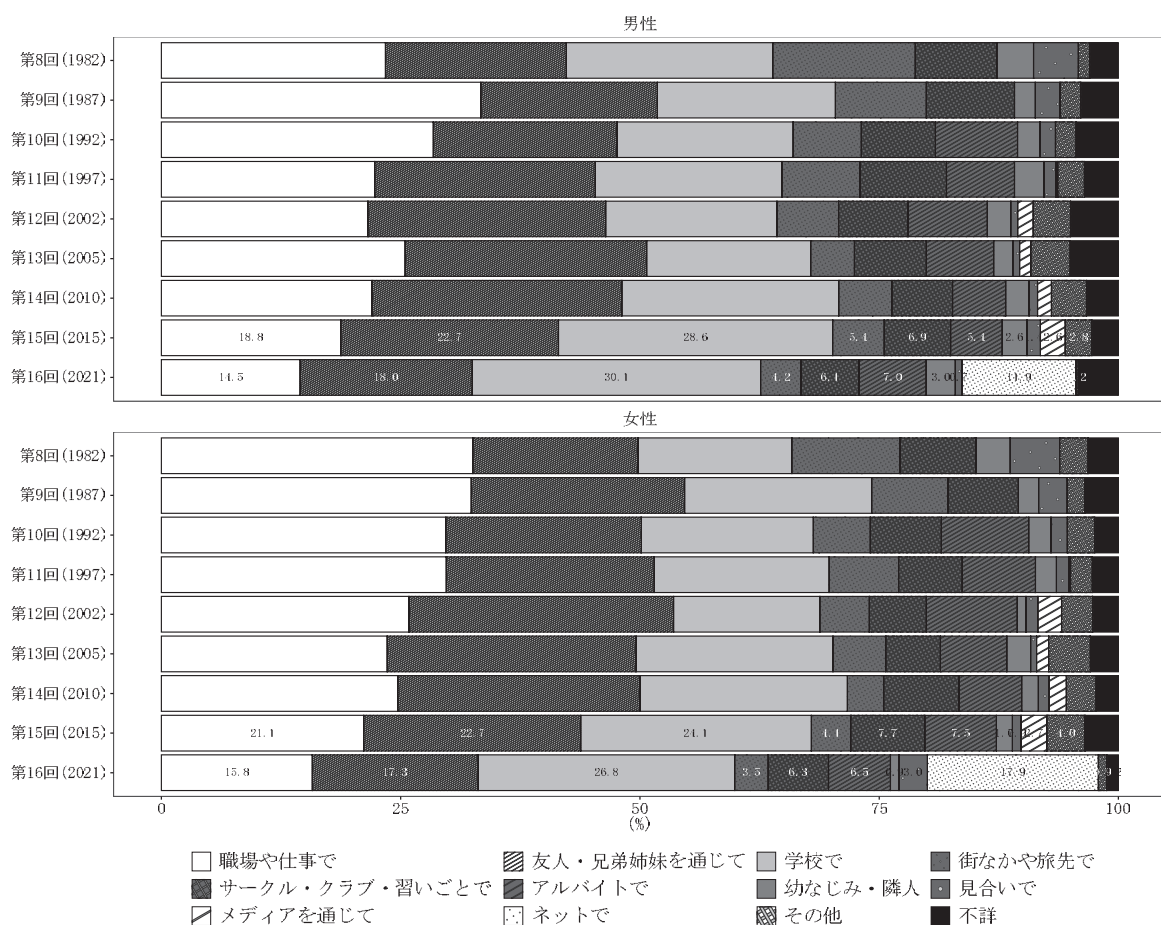
【報告書図表2-2-1 年齢別にみた、異性との交際経験（恋人として交際）をもつ未婚者の割合：第16回調査（2021年）】

2.3 異性の交際相手と知り合ったきっかけ

＜恋人、婚約者と知り合ったきっかけは学校が最多、今回調査では友人、職場経由が減り、SNSやアプリ等のインターネットサービスを介した出会いが1割以上を占める＞

調査時点で交際している異性の恋人または婚約者がいる未婚者に、その相手と知り合ったきっかけをたずねた。男女とも「学校で」が最多で、前回調査の男性 28.6%から 30.1%に、女性 24.1%から 26.8%に微増している。一方で、男女とも「友人や兄弟姉妹を通じて」と「職場や仕事の関係で」は前回調査からそれぞれ5ポイント程度減少した。さらに、第16回調査では既存の選択肢にあてはまらない場合として、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）やマッチングアプリといった個人間の交流の場をオンラインで提供するサービスの利用を想定した「ネット（インターネット）」という新たな選択肢が追加された。「ネットで」と答えた男性は 11.9%、女性は 17.9%にのぼり、恋人または婚約者のいる未婚男女の 10 人に 1 人以上が、インターネットを使ったサービスを介して交際相手と知り合っている。

図表 2-3-1 調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合
(恋人または婚約者がいる未婚者)



注：対象は恋人として交際している異性の相手がいる、または婚約者がいる18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（576）、女性（776）、第16回男性（428）、女性（571）。「見合いで」には知り合ったきっかけが「見合いで」と「結婚相談所」を含む。第8,9回調査は「アルバイトで」を選択肢に含まない。「メディアを通じて」は第11回から第15回における「その他」の自由記述のうち、「ウェブ」サイト、インターネットといった内容を抽出したもの。「ネットで」は第16回における新規の選択肢（「上記以外で」ネット（インターネット）で）。回答欄の注に「SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。」と記載されている。設問：（最も親しい）交際相手とは、いつ頃どのようなきっかけで知り合いましたか。選択肢：「学校で」「職場や仕事の関係で」「幼なじみ・隣人関係」「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで」「友人や兄弟姉妹を通じて」「見合いで（親せき・上役などの紹介も含む）」「結婚相談所（オンラインを含む）」「街なかや旅先で」「アルバイトで」「（1～9以外で）ネット（インターネット）で→（具体的に）」「その他→（具体的に）」

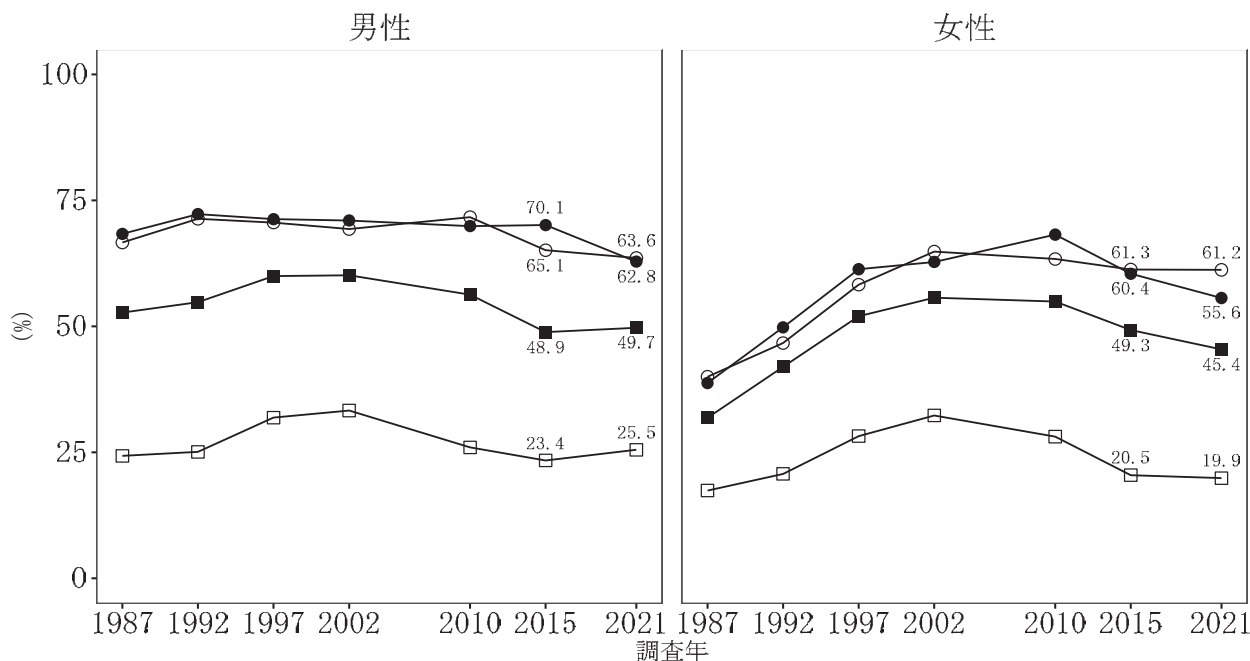
【報告書図表2-3-1 調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合（恋人または婚約者がいる未婚者）】

2.4 性交経験

<性交経験のある割合は、20代後半の未婚男女は6割で推移>

18～34歳の未婚者のうち、性交経験のある割合は、男性で53.0%、女性で47.5%である（図表の注を参照）。これを年齢別にみると、20代後半では男性で63.6%、女性で61.2%（前回男性65.1%、女性61.3%）であり、前回から横ばいである。30～34歳の男女、20～24歳の女性では、前回調査から性交経験割合の低下がみられた。

図表 2-4-1 調査・年齢別にみた、性交経験のある未婚者割合



□ 18～19歳 ■ 20～24歳 ○ 25～29歳 ● 30～34歳

注：対象は18～34歳の未婚者。不詳を含めた総数に対する割合。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）での性交経験割合は、男性第15回（2015）54.2%、第16回（2021）53.0%、女性第15回（2015）50.3%、第16回（2021）47.5%。客体数は、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。第13回（2005）は設問が異なるため図には表示していない。設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」（1. ある、2. ない）。

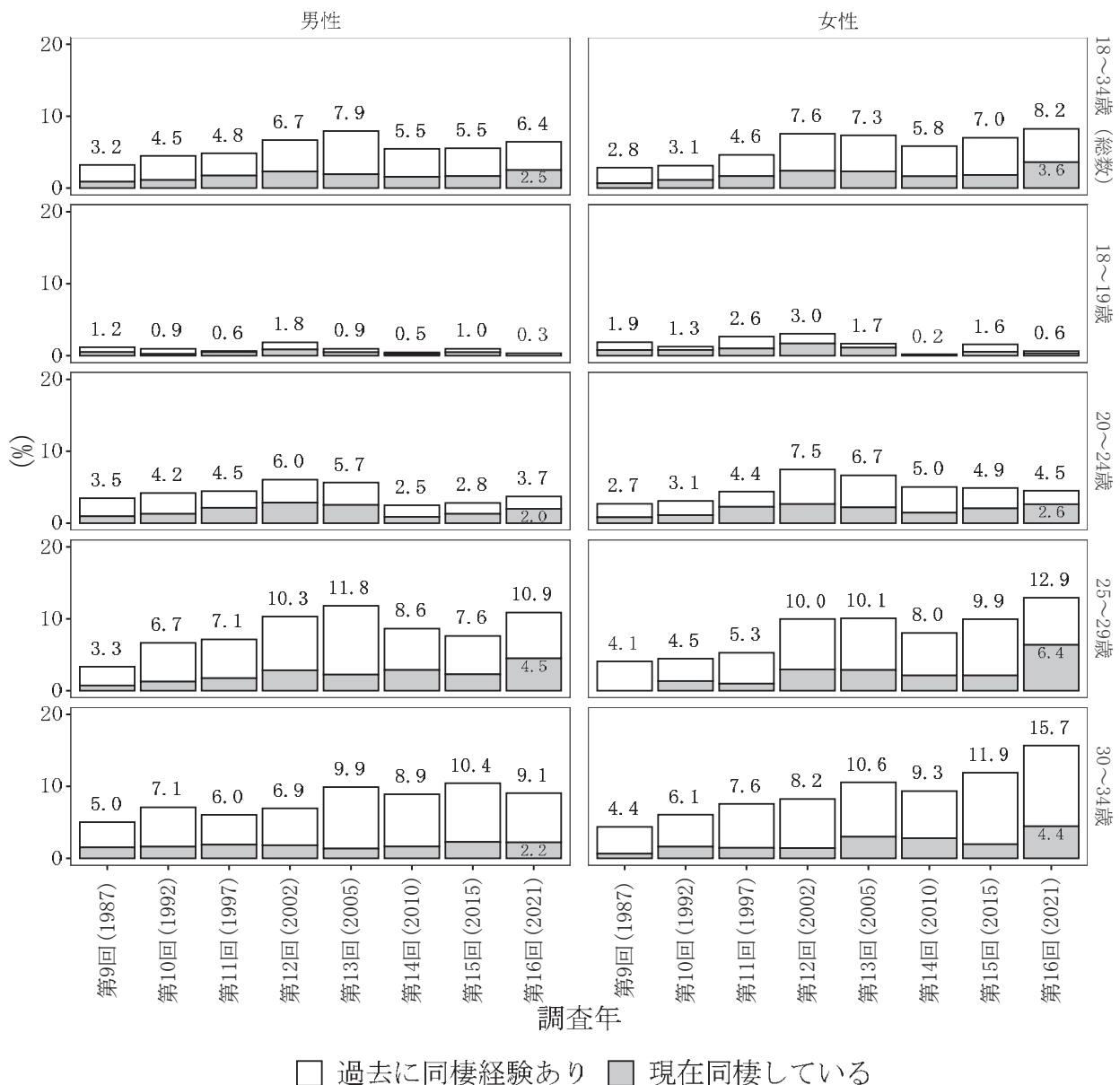
【報告書図表2-4-1 調査・年齢別にみた、性交経験のある未婚者割合】

2.5 同棲経験

<20代後半で同棲経験のある未婚男性は10.9%、未婚女性は12.9%>

未婚者の同棲経験（「以前はあるが現在はしていない」と「現在している」を合わせた割合）は、18～34歳の未婚者全体で男性6.4%、女性8.2%である。男性ではいずれの年齢層でもおおむね横ばいに推移しており、20代後半で今回10.9%であった。女性では、20代後半で12.9%に、30代前半で15.7%に上昇した。

図表 2-5-1 調査・年齢別にみた、未婚者の同棲経験割合



注：対象は18～34歳の未婚者。不詳を含めた総数に対する割合。図には、全調査回について同棲経験割合を示し、第16回のみ現在同棲している割合も示した。18～19歳で現在同棲している割合は男性0.3%、女性0.3%。設問「あなたはこれまでに同棲の経験（特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活をしたこと）がありますか。」（1. ない、2. 以前はあるが現在はしていない、3. 現在している）。

【報告書図表2-5-1 調査・年齢別にみた、未婚者の同棲経験割合】

3 希望するライフコース像

3.1 結婚・出産・仕事をめぐる女性のライフコース

＜女性が理想とするライフコース、「両立コース」が最多になり、「非婚就業コース」も増加、「再就職コース」「専業主婦コース」は減少＞

今後の人生において結婚、出産・子育て、仕事をどのように組み合わせるかについて、女性には、理想とするライフコース（理想ライフコース）と実際になりそうだと考えるライフコース（予想ライフコース）をたずねた。

【選択肢に示されたライフコース像】

- ・ 結婚せず、仕事を続ける（非婚就業コース）
- ・ 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける（DINKs コース※）
- ・ 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（両立コース）
- ・ 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ（再就職コース）
- ・ 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない（専業主婦コース）
- ・ その他（自由記述）

※DINKs Double Income No Kids の略で、共働きで子どもを意図的に持たない夫婦のこと。

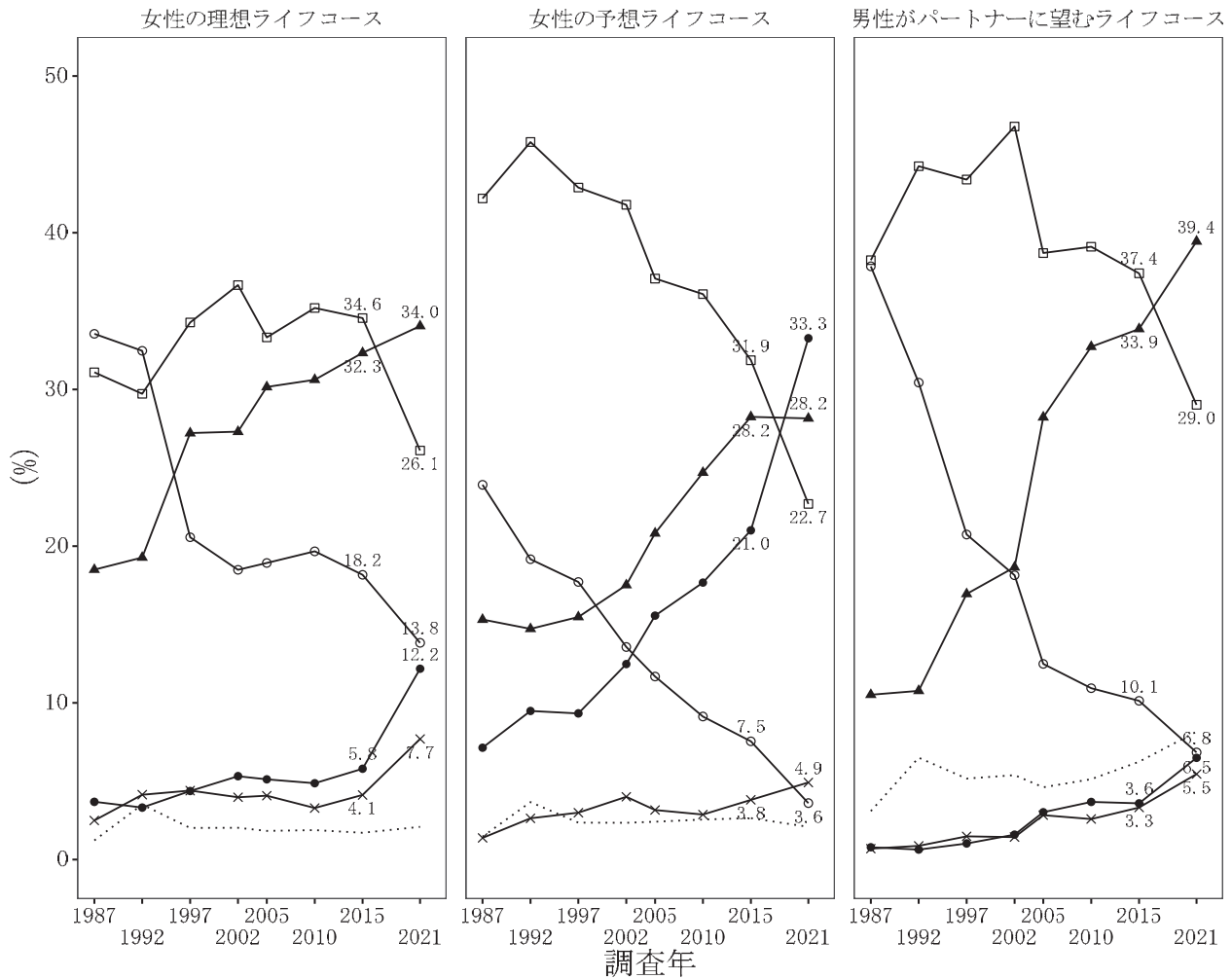
「理想ライフコース」では、「両立コース」が前回調査の 32.3%から 34.0%に増加し、今回初めて最多となった。「再就職コース」は前回の 34.6%から 26.1%に、「専業主婦コース」は 18.2%から 13.8%に減少した。今回調査では「非婚就業」「DINKs コース」を理想とする人が増加した。

「予想ライフコース」をみると「再就職コース」が前回の 31.9%から 22.7%に減少、「両立コース」は前回 28.2%、今回 28.2%で横ばいである。一方で、「非婚就業コース」は前回の 21.0%から増加し、33.3%で最多となった。

＜パートナーに「両立コース」を望む男性が増加し、ほぼ4割で最多＞

男性に、パートナーとなる女性に望むライフコースをたずねたところ、「再就職コース」が前回の 37.4%から 29.0%に減少、「専業主婦コース」が 10.1%から 6.8%に減少した一方で、「両立コース」は 33.9%から 39.4%に増加し、最多となった。

図表 3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、
男性がパートナーに望むライフコース



● 非婚就業コース ▲ 両立コース ○ 専業主婦コース
 × DINKsコース □ 再就職コース …… その他

注：対象は18～34歳の未婚者。不詳の割合は省略。客体数は、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第13回（2005）男性（3,139）、女性（3,064）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。設問（1）女性の理想ライフコース：（第9回（1987）～10回（1992）調査）「現実の人生と切りはなして、あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」、（第11回（1997）～16回（2021）調査）「あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」。 （2）女性の予想ライフコース：（第9回（1987）調査）「これまでを振り返った上で、あなたの人生はどのようなタイプになりそうですか」、（第10回（1992）調査）「これまでを振り返った上で、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」、（第11回（1997）～16回（2021）調査）「理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」。 （3）男性がパートナー（女性）に望むライフコース：（第9回（1987）～12回（2002）調査）「女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」、（第13回（2005）～16回（2021）調査）「パートナー（あるいは妻）となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」。
 【報告書図表3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、男性がパートナーに望むライフコース】

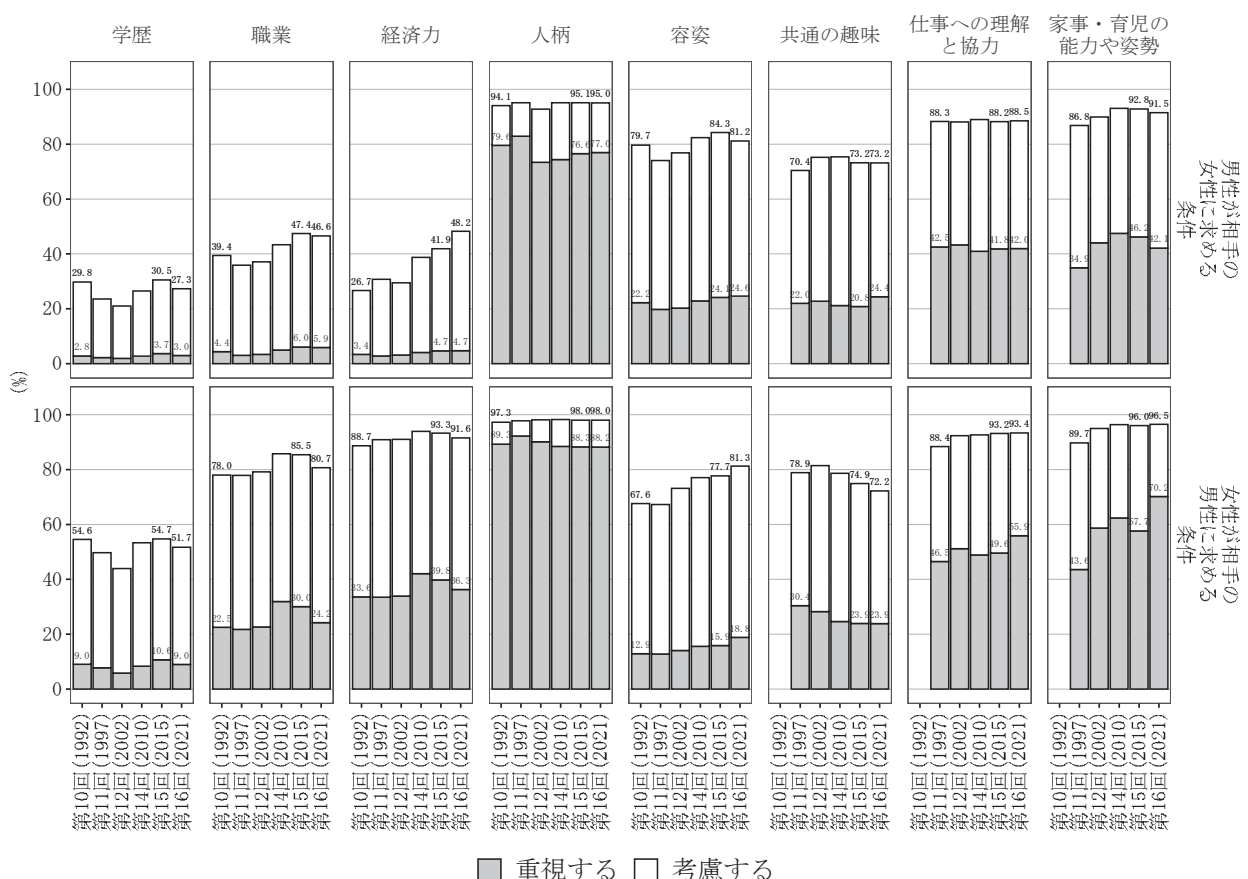
3.2 結婚相手に求める条件

＜結婚相手に求める条件、男性は女性に対し「経済力」を、女性は男性に対し「家事・育児の能力や姿勢」「容姿」を求める割合が上昇＞

結婚相手に求める条件として重視するものは、男女とも「人柄」に次いで「家事・育児の能力や姿勢」「仕事への理解と協力」であった。女性では7割が相手の「家事・育児の能力や姿勢」を重視している。男性に比べ、女性のほうが相手の学歴、職業、経済力を重視・考慮する傾向があり、第10回（1992年）調査以来、その傾向は変わっていない。

1990年代以降の変化としては、男性では相手の「経済力」を重視・考慮する人が増え（1992年調査の26.7%から2021年の48.2%）、女性では相手の「家事・育児の能力や姿勢」を重視する人が増えた（1997年調査の43.6%から2021年調査の70.2%）。また相手の「容姿」を重視・考慮する女性が増えた一方で（1992年調査の67.6%から2021年調査の81.3%）、相手との「共通の趣味」を重視・考慮する女性は減っている（1997年調査の78.9%から2021年調査の72.2%）。

図表 3-2-1 調査別に見た、結婚相手の条件として重視・考慮する割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。設問「あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑧の項目について、どの程度重視しますか。」（①相手の学歴（学歴）、②相手の職業（職業）、③相手の収入などの経済力（経済力）、④相手の人から（人柄）、⑤相手の容姿（容姿）、⑥共通の趣味の有無（共通の趣味）、⑦自分の仕事に対する理解と協力（仕事への理解と協力）、⑧家事・育児に対する能力や姿勢（家事・育児の能力や姿勢））（1. 重視する、2. 考慮する、3. あまり関係ない）。

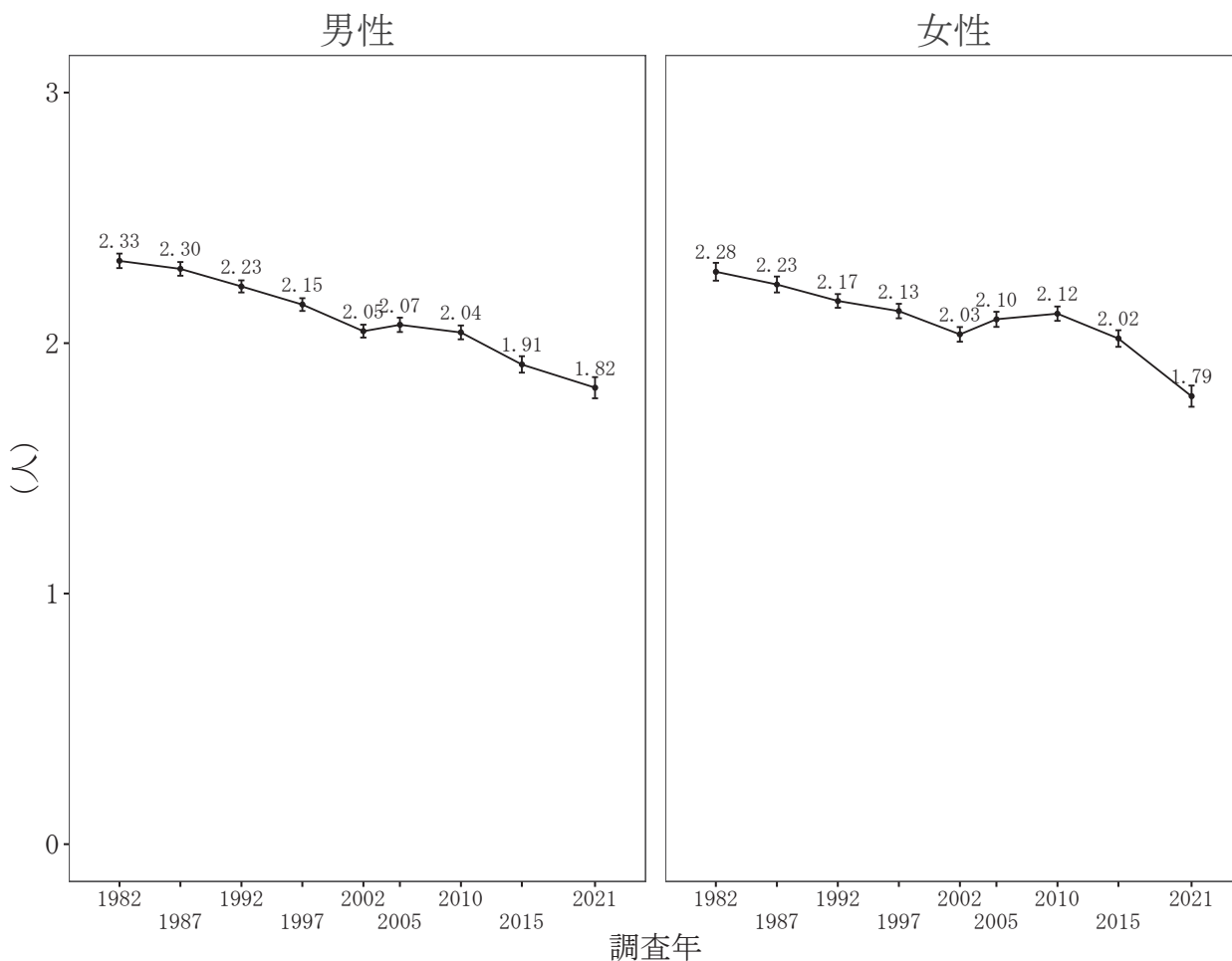
【報告書図表3-2-1 調査別に見た、結婚相手の条件として重視・考慮する割合】

3.3 希望子ども数・男女児組合せと子どもを持つ理由

<未婚者の希望子ども数は減少が続き、今回女性で一段と進む>

未婚者に子どもは何人くらいほしいかをたずねている（希望子ども数）。結婚意思のある18～34歳の未婚男女の平均希望子ども数は、1982年以降おおむね低下傾向が続き、今回調査では男性で1.82人となり、女性では初めて2人を下回り1.79人となった。

図表 3-3-1 調査別にみた、未婚者の平均希望子ども数



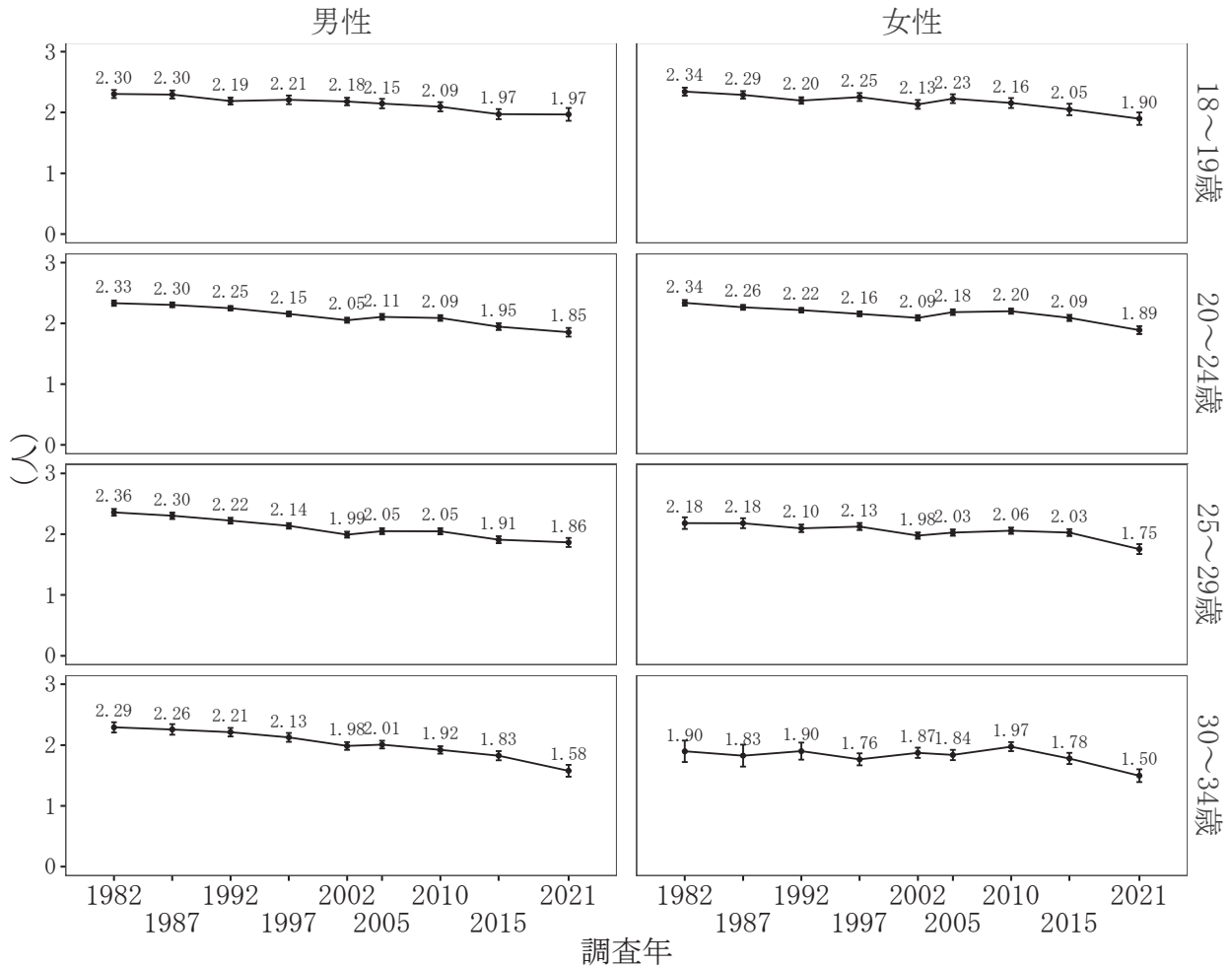
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第12回（2002）男性3,270、女性3,001、第13回（2005）男性2,652、女性2,698、第14回（2010）男性3,084、女性2,993、第15回（2015）男性2,263、女性2,263、第16回（2021）男性1,613、女性1,690。なお、「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳未婚者の平均希望子ども数は、第12回（2002）男性0.65、女性0.71、第13回（2005）男性0.80、女性0.57、第14回（2010）男性0.59、女性0.49、第15回（2015）男性0.49、女性0.33、第16回（2021）男性0.31、女性0.21であり、18～34歳未婚者全体の平均希望子ども数は、第12回（2002）男性1.96、女性1.96、第13回（2005）男性1.98、女性2.01、第14回（2010）男性1.90、女性2.00、第15回（2015）男性1.74、女性1.88、第16回（2021）男性1.56、女性1.55である。設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」（0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上（ ）人）。

【報告書図表3-3-1 調査別にみた、未婚者の平均希望子ども数】

＜未婚男女の希望子ども数、全年齢層で平均2人を下回る＞

結婚意思のある未婚者の平均希望子ども数を年齢別にみると、いずれの年齢層でもおおむね低下傾向が続いている。今回調査では、男女ともにすべての年齢層でも2人を下回った。とくに30代前半の男性、30代前半および20代後半の女性で低下が大きく、それぞれ1.83人から1.58人、1.78人から1.50人に低下した。

図表 3-3-2 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数



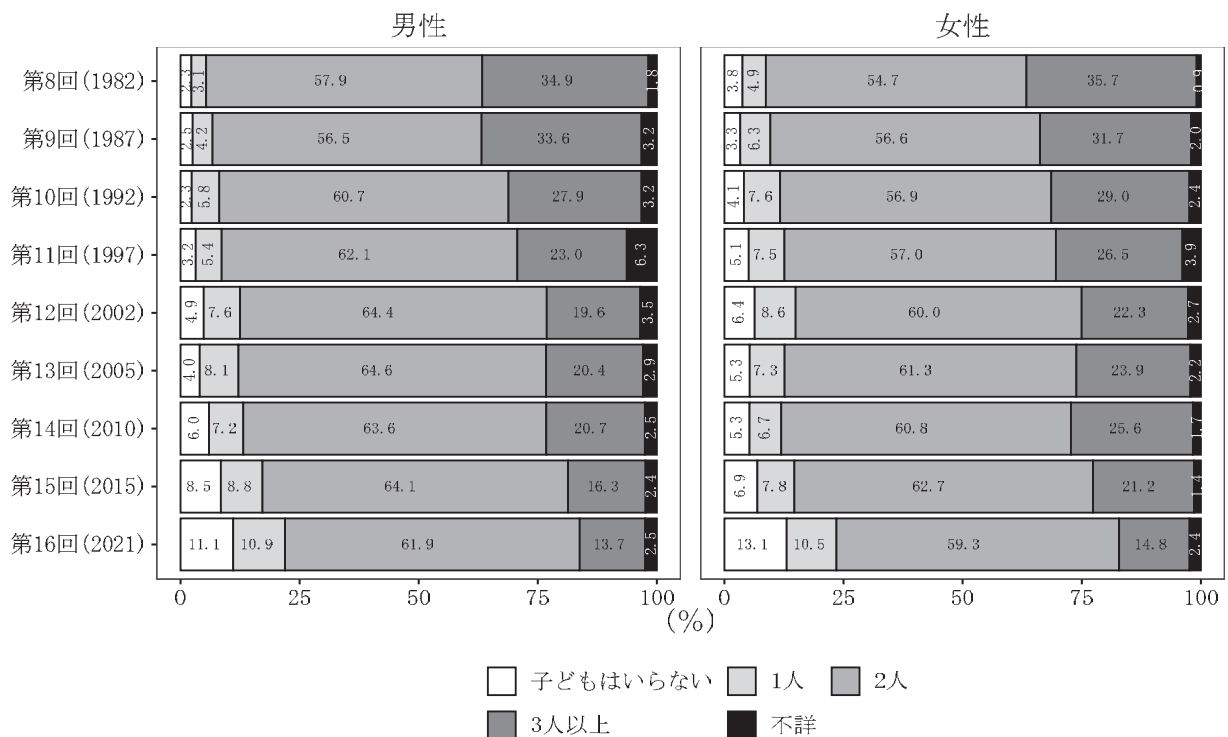
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、18～19歳男性（第15回（2015）356、第16回（2021）253）、女性（同339、275）、20～24歳男性（798、579）、女性（927、678）、25～29歳男性（645、474）、女性（658、453）、30～34歳男性（464、307）、女性（339、284）。未婚者全体の平均希望子ども数は、18～19歳男性（第15回（2015）1.85、第16回（2021）1.73）、女性（同1.95、1.72）、20～24歳男性（1.81、1.65）、女性（1.97、1.66）、25～29歳男性（1.68、1.61）、女性（1.89、1.52）、30～34歳男性（1.66、1.23）、女性（1.58、1.24）。

【報告書図表3-3-2 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数】

＜「子どもはいるない」と考える未婚男女が1割を超え、少子志向が進行＞

希望子ども数の分布をみると、未婚男女ともに6割前後は「2人」と回答し、子どもは二人がよいと考える「二子規範」は維持されている。一方で、「子どもはいるない」(0人)または「1人」と回答する割合は高まっている。「子どもはいるない」(0人)との回答は、今回調査で男女とも1割を超え、特に女性では前回の6.9%から13.1%へと大きく上昇した。「1人」という回答も男女ともに1割を超えており、未婚者の間で、無子・少子志向が増えている。

図表 3-3-3 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」(0. 子どもはいるない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。

【報告書図表3-3-3 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布】

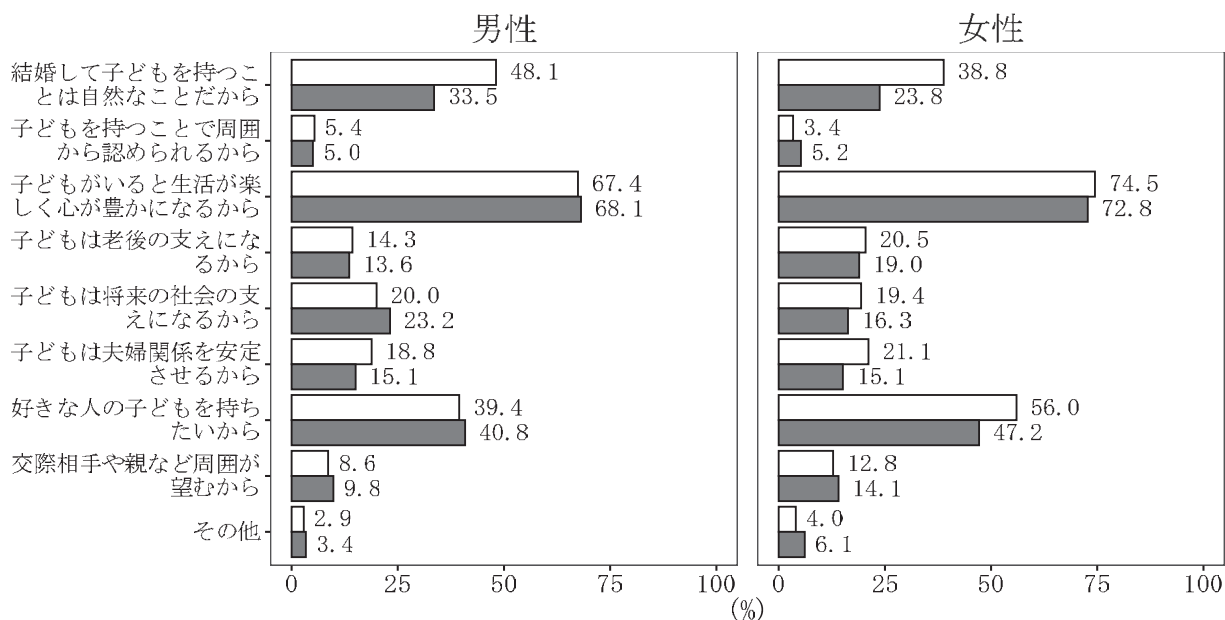
<未婚者が挙げる子どもを持つ理由、男女とも「自然なことだから」が大きく減少>

子どもを持つことを希望する未婚者に、子どもを持ちたいと思う理由をたずねたところ、前回と同様、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」の選択率が男女ともに最多で、7割前後となっている。

男性では「好きな人の子どもを持ちたいから」の選択率が4割程度あるが、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は前回調査の48.1%から33.5%へと減少した。「子どもは将来の社会の支えになるから」は20.0%から23.2%に微増した。

女性では「好きな人の子どもを持ちたいから」が56.0%から47.2%へ、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」が38.8%から23.8%へ、「子どもは夫婦関係を安定させるから」が21.1%から15.1%へとそれぞれ減少している。

図表 3-3-4 調査別にみた、未婚者の子どもを持つ理由



□ 第15回(2015) ■ 第16回(2021)

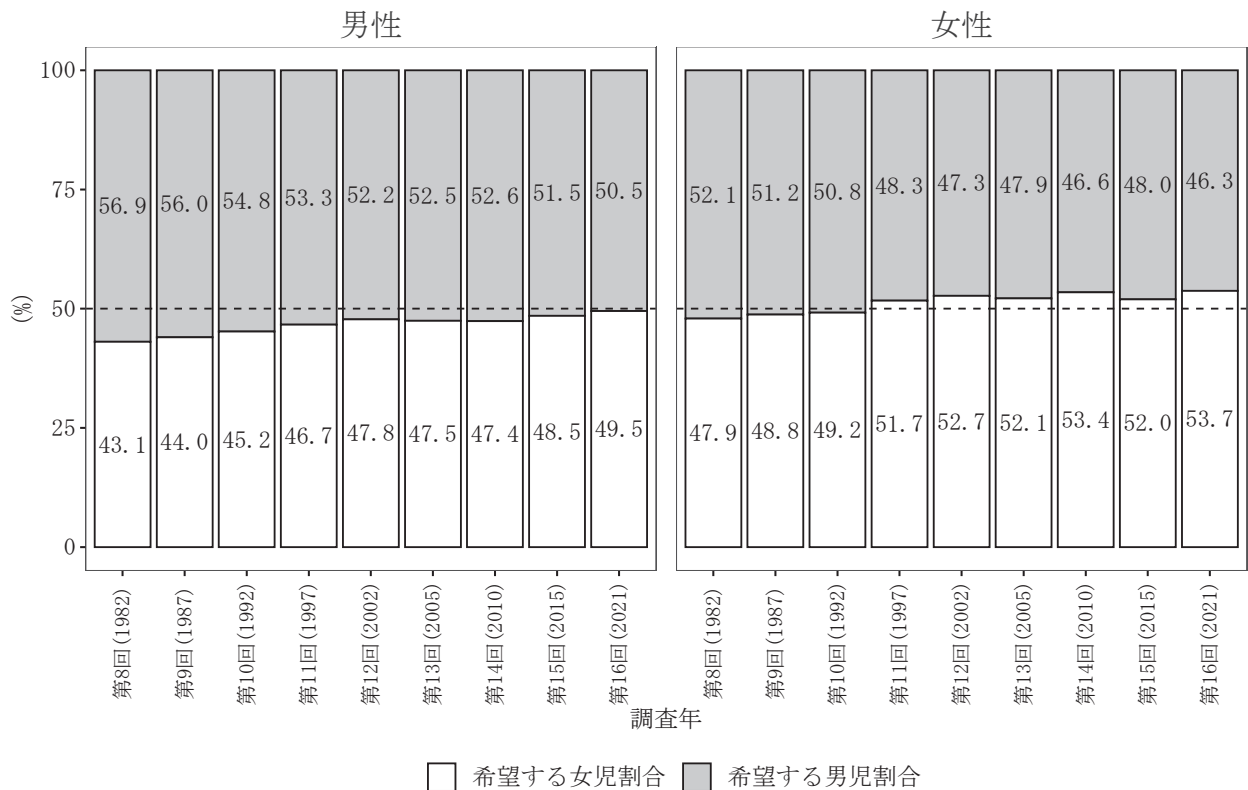
注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上と回答した18～34歳の未婚者。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第15回男性(1,990)、女性(2,029)、第16回男性(1,393)、女性(1,435)。設問「1人以上の子どもをほしいとお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

【報告書図表3-3-4 調査別にみた、未婚者の子どもを持つ理由】

<男女ともに女兒選好が優勢になりつつある>

結婚意思があり、1人以上の子どもを持ちたいと希望している未婚男女に、その男女児組合せの希望についてたずねた。希望子ども数の男女児構成は、かつては男児の構成割合のほうが高かったが、未婚女性では第11回調査以降、女兒の構成割合が半数を超えるようになり、未婚男性も、今回調査でほぼ半々の男女児構成比となった。調査回を追うごとに全体としてゆるやかに、男児よりも女兒を望む「女兒選好」の傾向が強まっている。

図表 3-3-5 調査・男女別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成



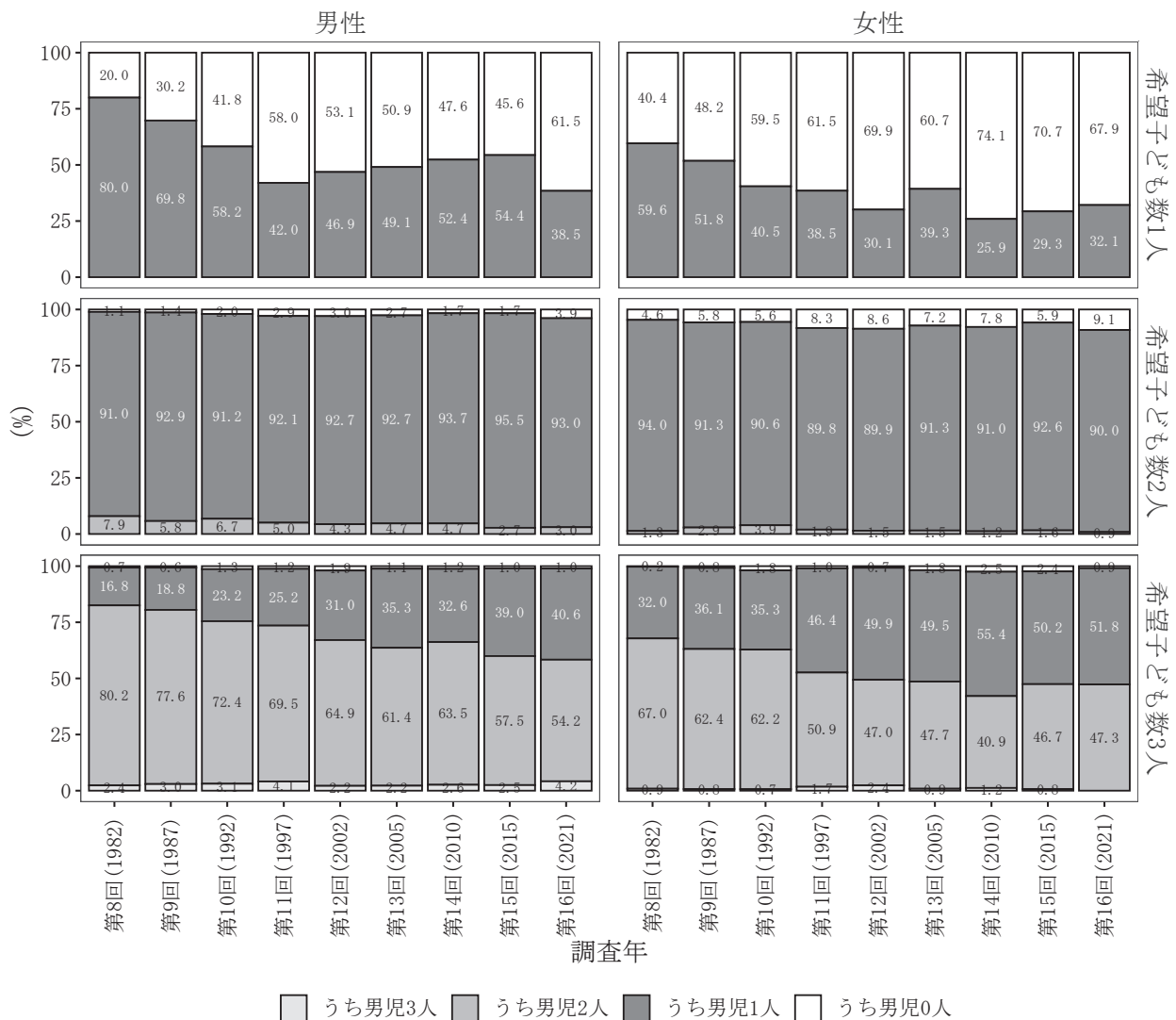
注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに希望があるとした18～34歳の未婚者。本図は回答された希望の男女児組み合わせにおける総男女児数の構成を示す。希望子ども数の内訳として、男女児組合せの希望があると回答した割合は、第8回（男性72.8%、女性75.0%）、第9回（男性69.9%、女性76.4%）、第10回（同65.0%、71.5%）、第11回（61.5%、68.8%）、第12回（59.4%、70.4%）、第13回（73.6%、78.4%）、第14回（69.0%、74.1%）、第15回（54.8%、64.4%）、第16回（47.5%、51.7%）。各調査回における希望子ども数性比（希望女児数100に対する希望男児数）は、第8回（男性132.1、女性108.6）、第9回（男性127.2、女性105.0）、第10回（同121.1、103.4）、第11回（114.3、93.5）、第12回（109.3、89.8）、第13回（110.6、91.8）、第14回（111.1、87.1）、第15回（106.1、92.4）、第16回（101.9、86.1）。女兒選好が強いほど、この値は小さくなる。

【報告書図表3-3-5 調査・男女別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成】

<男女児1人ずつの組合せを希望する未婚男女が最多>

希望子ども数別に、その男女児組合せの希望の構成をみると、もっとも回答者が多い「希望子ども数2人」では、男女児を1人ずつ希望するバランス選好を示す未婚男女が9割を超えている。他方、男女児同数で回答できない奇数の希望子ども数の場合は、未婚男性で「希望子ども数1人」では大幅に女兒選好が強まっており、「希望子ども数2人」や「希望子ども数3人」でも、女兒が多い組合せを希望する未婚男性が小幅ながら増えている。

図表 3-3-6 調査・男女別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組合せ



注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに希望があるとした18～34歳の未婚者。希望子ども数4人以上の組み合わせについては掲載を省略。第16回調査の客体数は、希望子ども数1人（男性39人、女性56人）、希望子ども数2人（男性532人、女性580人）、希望子ども数3人（男性96人、女性112人）。

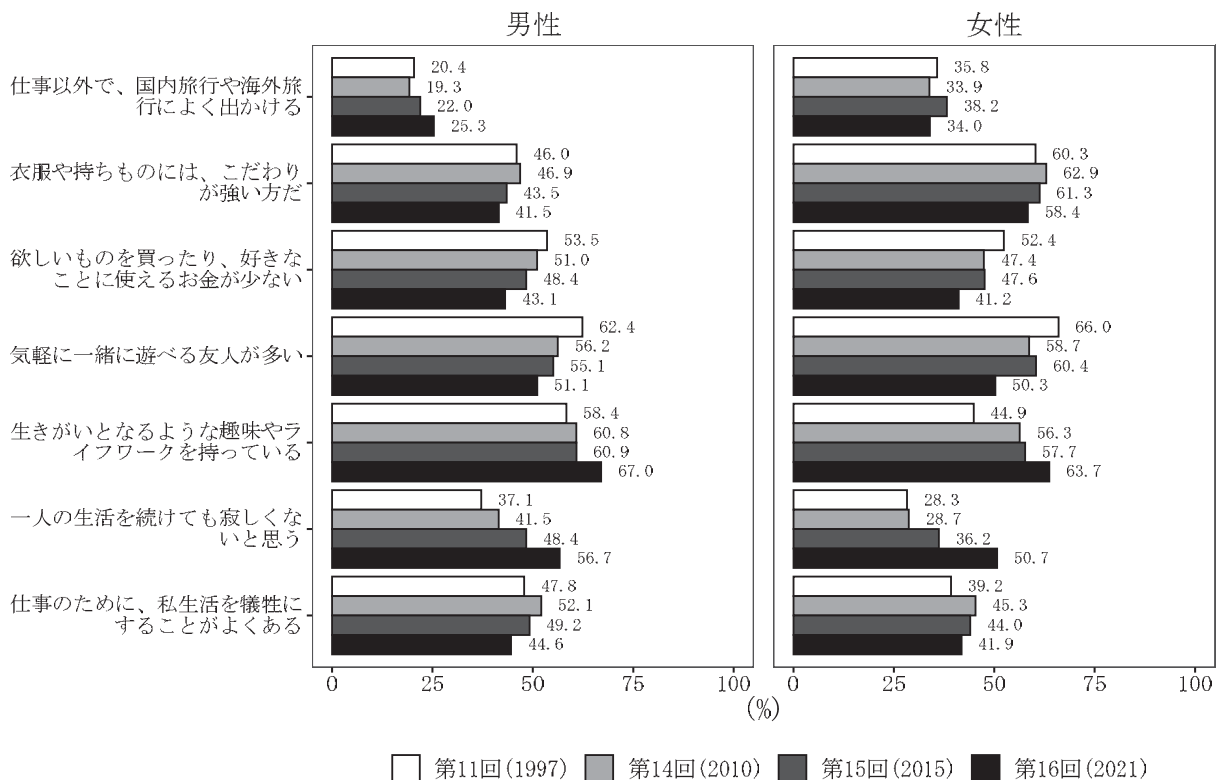
【報告書図表3-3-6 調査・男女別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組合せ】

4 未婚者の生活スタイル

＜「生きがいとなる趣味持つ」「一人の生活寂しくない」と答える未婚者が増加＞

人づきあいや消費、働き方、趣味の有無など、未婚者の生活スタイルについてたずねたところ、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」と答える人が男性では67.0%、女性では63.7%で最多であり、それぞれ前回調査から6ポイント程度増加した。また、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」割合も増加し、特に女性で伸び率が高く、前回の36.2%から50.7%へと増加し、過半数を超えた。一方、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」と答える人は男女とも減少し、男性では前回の55.1%から51.1%、女性では前回の60.4%から50.3%となった。その他、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」の選択率は男女ともに低下している。

図表 4-1-1 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまると回答した未婚者の割合



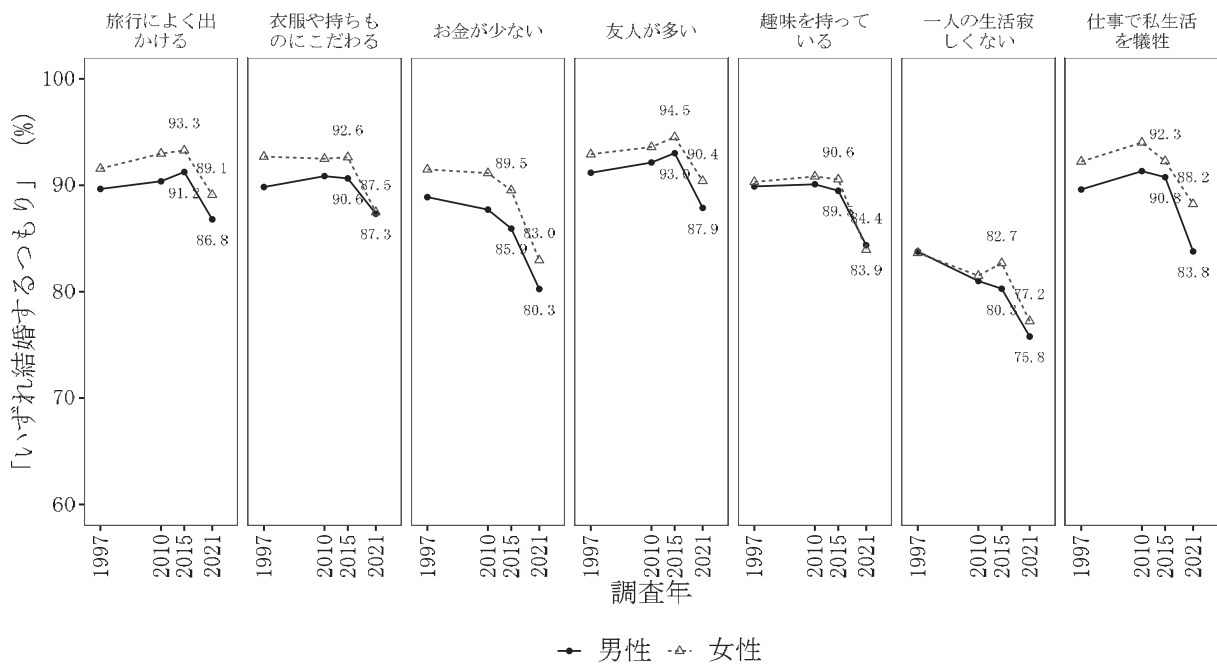
注：対象は18～34歳の未婚者。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の選択割合を合計した数値(%)を表示。「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」は職業を持つ人のみ回答。客体数は、第11回男性(3,982)、女性(3,612)、第14回男性(3,667)、女性(3,406)、第15回男性(2,705)、女性(2,570)、第16回男性(2,033)、女性(2,053)。設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」〔左の考え方に〕1.あてはまる、2.どちらかといえばあてはまる、3.どちらかといえばあてはまらない、4.あてはまらない。

【報告書図表4-1-1 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまると回答した未婚者の割合】

＜「旅行によく出かける」「衣服や持ちものにこだわる」「友人が多い」といった活動的な生活スタイルの未婚者でも、今回「いずれ結婚するつもり」の割合が減少＞

生活スタイルによって、未婚者の結婚の意欲は異なる。生活スタイルに関する各項目に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した未婚者について、生涯の結婚意思に関して「いずれ結婚するつもり」と回答した割合を比較した。これまでの調査では「気軽に一緒に遊べる友人が多い」「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」など活動的な生活スタイルを持つ未婚者で「いずれ結婚するつもり」の割合が高い傾向にあった。今回調査では、こうした生活スタイルを持つ未婚者でも結婚意欲が低下に転じた。また、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」「一人の生活を続けても寂しくないと思う」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」といった生活スタイルをもつ未婚者も、一段と結婚意欲が低下した。

図表 4-1-2 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の生涯の結婚意思
（「いずれ結婚するつもり」と回答した割合）

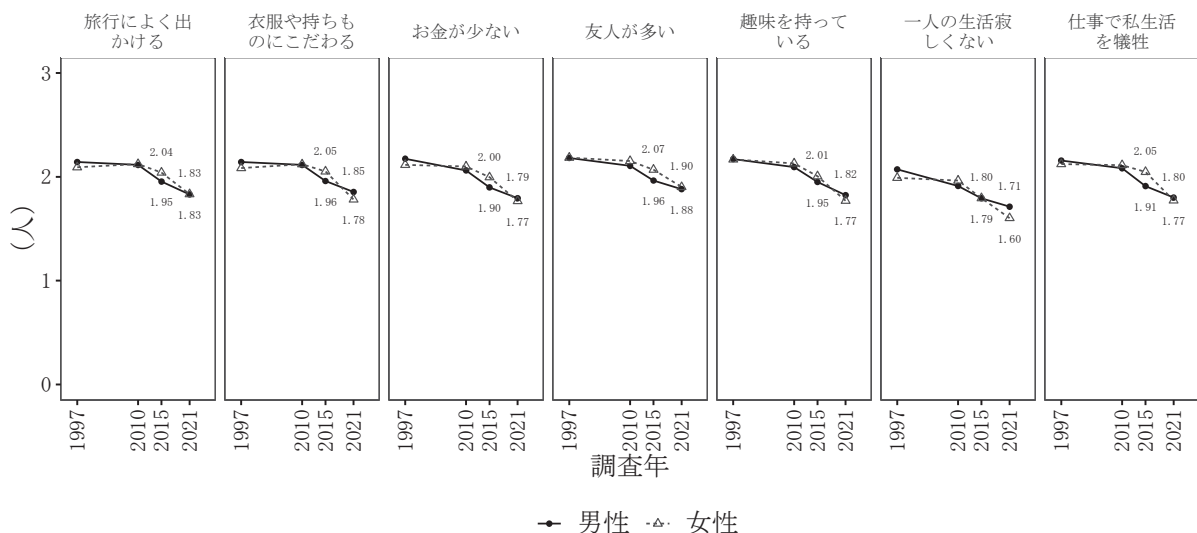


注：対象は各生活スタイルについて、図表4-1-1の各項目に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答した18～34歳の未婚者。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）で「いずれ結婚するつもり」と回答した割合は、第15回（2015）調査（男性85.7%、女性89.3%）、第16回（2021）調査（81.4%、84.3%）。第16回（2021）調査の客体数は「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」（男性515、女性697）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」（844、1,198）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」（876、845）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」（1,039、1,032）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」（1,362、1,308）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」（1,152、1,041）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」（598、561）（職業を持つ人のみ回答）。生活スタイルの設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」生涯の結婚意思の設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。
【報告書図表4-1-2 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の生涯の結婚意思（「いずれ結婚するつもり」と回答した割合）】

＜生活スタイルに関わらず、希望子ども数の低下が続く＞

生活スタイルによって、希望子ども数には違いが見られる。生活スタイルに関する各項目に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した未婚者について、希望子ども数を比較した。2010年調査までは、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」など、活動的な生活スタイルを持つ未婚者で希望子ども数が多い傾向にあったが、今回調査では、2015年調査に引き続き、こうした生活スタイルを持つ未婚者でも希望子ども数の平均水準が低下にした。「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」「一人の生活を続けても寂しくないと思う」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」といった生活スタイルをもつ未婚者は、希望子ども数が少ない傾向にあったが、今回調査で一段と低下した。

図表 4-1-3 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の平均希望子ども数



注：対象は各生活スタイルについて、図表4-1-1の各項目に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答し、「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）での平均希望子ども数は、第15回（2015）調査（男性1.91人、女性2.02人）、第16回（2021）調査（1.82人、1.79人）。第16回（2021）調査の客体数は「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」（男性447、女性621）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」（737、1,048）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」（703、701）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」（913、933）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」（1,149、1,098）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」（873、804）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」（501、495）（職業を持つ人のみ回答）。各生活スタイルについて、未婚者全体の平均希望子ども数は、「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」男性（第15回（2015）1.82、第16回（2021）1.63）、女性（同1.95、1.67）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」男性（第15回（2015）1.83、第16回（2021）1.66）、女性（同1.94、1.58）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」男性（第15回（2015）1.71、第16回（2021）1.50）、女性（同1.85、1.50）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」男性（第15回（2015）1.88、第16回（2021）1.69）、女性（同1.99、1.75）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」男性（第15回（2015）1.82、第16回（2021）1.59）、女性（同1.87、1.52）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」男性（第15回（2015）1.55、第16回（2021）1.37）、女性（同1.56、1.29）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」男性（第15回（2015）1.79、第16回（2021）1.57）、女性（同1.95、1.61）。生活スタイルの設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなた自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」希望子ども数の設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」(0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。
【報告書図表4-1-3 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の平均希望子ども数】